

CSRの取り組み

ブラザーグループは、事業活動の礎である「グローバル憲章」に掲げられた
ステークホルダーへの信頼を積み重ねることを
CSR経営の重要課題と位置づけ、グループ一丸となって取り組んでいます。

INDEX

トップからのCSRメッセージ	1
ブラザーグループのCSR	2
ブラザーグループのCSR経営	3
ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則	4
コーポレートガバナンス	8
内部統制	11
コンプライアンス	13
情報セキュリティ	15
ブラザーグループのCSR課題	16
第三者意見	21
お客様とともに	23
お客様第一の製品開発	24
お客様ご迷惑率の低減	25
安全・安心な製品設計	27
物流・販売・サービス体制	28
従業員とともに	29
多様な人材の確保	30
多様な働き方の支援	33
各地域での人材育成	37
グローバル人材育成	39
労働安全衛生	40
グローバル憲章の共有	44
従業員の「誇り度」向上推進	46
ビジネスパートナーとともに	48
CSR調達の推進	49
お取引先の声	51
株主とともに	54
IRコミュニケーション	55
地域社会とともに	57
グローバルな社会貢献活動	58
日本での社会貢献活動	63
米州での社会貢献活動	64
欧州での社会貢献活動	65
アジア・オセアニアでの社会貢献活動	66
中国での社会貢献活動	67

報告の範囲: ブラザー工業株式会社および国内・海外グループ会社
対象期間: 活動報告(実績) [2015年4月1日~2016年3月31日]
参考にしたガイドライン: GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第4版」

トップからのCSRメッセージ

ステークホルダーの皆さまからの信頼を積み重ねるために

ブラザーグループのCSR経営

企業にとって「未来永劫に繁栄し続けること」が重要だと考えています。そのためには、事業の成長を目指すと同時に、社会への責任を真摯に果たし続ける経営、つまり、CSR経営をグローバルに推進することが大切です。

CSR経営とは、「ブラザーグループ グローバル憲章」に示しているように、社会からの要請や技術の変革など、会社を取り巻くさまざまな環境変化を先取りし、あらゆるステークホルダーの皆さまとの信頼を積み重ね、お客様や社会にとっての新たな製品やサービス、ソリューションを生み出すこと、つまりブラザーグループの使命である「優れた価値を提供する」ことに他なりません。



CSR経営の進化

ブラザーグループはその時々を経営環境の変化に即して事業を展開し、企業としての進化を果たしてまいりました。

しかし今、世界的なGDP成長率の低迷、モバイル端末の普及に伴う印刷機会の減少、あるいは為替や株価、資源価格の乱高下など、ブラザーグループ全体に大きな経営インパクトを及ぼす外部環境・事業環境の急激な変化が起きています。非常に不透明な今だからこそ、中期戦略「CS B2018」にある、「事業」「業務」「人財」の3つの変革を進め経営基盤の強化を図ることが急務だと考えています。

そのためブラザーグループは、多様化するお客様の声を反映した新規事業の育成・新商品の創出とそのプロセスを通じたモノ創り力の進化、グローバルな人材の育成、女性活躍推進をはじめとするダイバーシティの促進、地球環境保全への貢献、地域へ密着した社会貢献活動、コーポレートガバナンスの推進など、さまざまな課題に真摯に向き合っています。

「ブラザーグループ グローバル憲章」に示された価値観を共有し、グループ従業員全員が"At your side."の精神で行動し、ブラザーグループのCSR経営をさらに進化させていきます。

ステークホルダーの皆さまからの信頼を追求

ブラザーグループは、企業の成長に比例して高まるグローバルな期待や要請に応えるために、今後も、モノ創り企業としての優れた価値の提供、環境保全、社会貢献に取り組んでまいります。

ブラザーグループは未来に向かい、あらゆるステークホルダーの皆さまからの信頼を積み重ねる経営にグローバルチーム一丸となって挑戦し続けます。

2016年8月
ブラザー工業株式会社
代表取締役社長
小池 利和

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループは、CSR活動の根幹となる考え方が示されている「ブラザーグループ グローバル憲章」を共有している従業員一人ひとりの行動によって、すべてのステークホルダーから信頼され、従業員にとって心の底から誇りの持てる企業となることを目指します。

ブラザーグループのCSR経営

- ・すべてのステークホルダーから信頼され、従業員にとって誇りの持てる企業を目指して

コーポレートガバナンス

- ・コーポレートガバナンスの基本的な考え方
- ・ブラザー工業のコーポレートガバナンス体制
- ・リスクマネジメント

コンプライアンス

- ・コンプライアンス体制
- ・グループ従業員の意識向上に向けて活動を強化

ブラザーグループのCSR課題

- ・グローバル憲章に基づいたブラザーグループCSR経営の課題
- ・2015年度の活動計画と実績、および2016年度の活動計画

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

- ・「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

内部統制

- ・体制の整備と継続的なレベルアップ
- ・地域統括会社と連携し内部監査を実施

情報セキュリティ

- ・情報を適正に管理・保護するために
- ・情報流出防止対策の強化

第三者意見

- ・ブラザーグループの2015年度のCSRへの取り組みに対する第三者意見

ブラザーグループのCSR

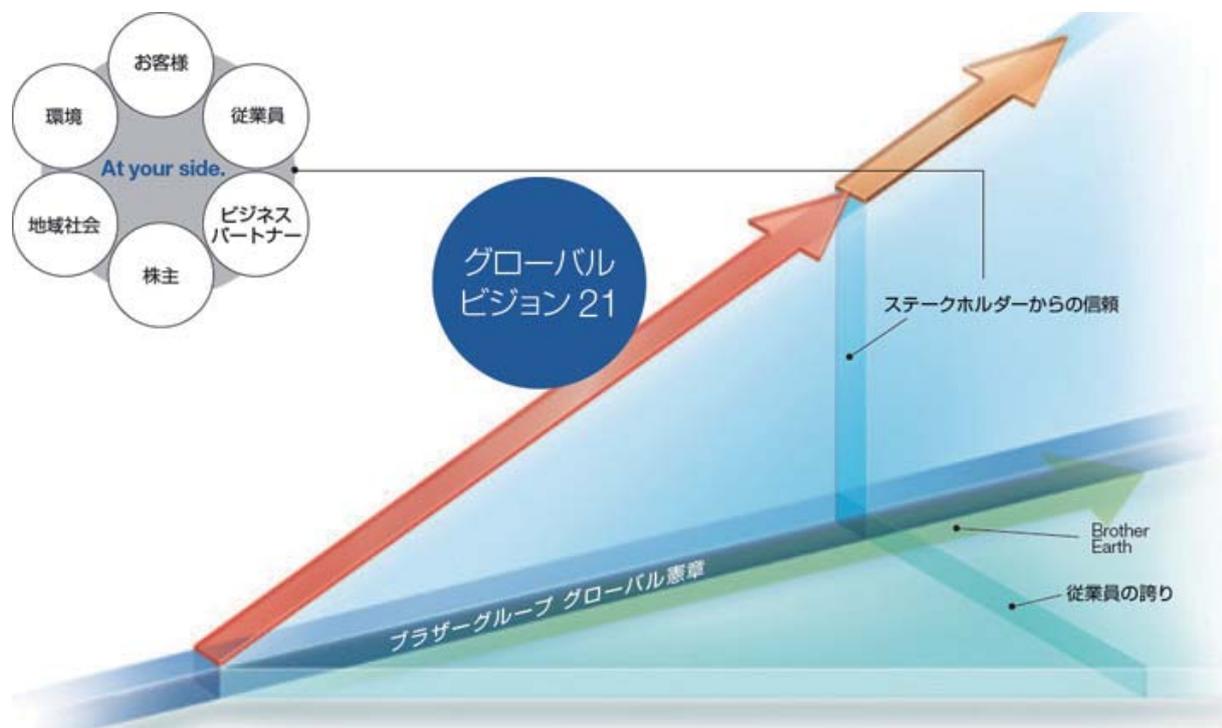
ブラザーグループのCSR経営

すべてのステークホルダーから信頼され、従業員にとって誇りの持てる企業を目指して

ステークホルダーからの信頼を高め、持続的に成長

ブラザーグループは、グローバルな期待や要請に応えるために、モノ創り企業としての優れた価値の提供、環境保全、社会貢献を、最高度の倫理観に根差した全従業員の行動によって促進し、ブラザーブランドへの信頼を高めていきます。

そして、未来に向かい、あらゆるステークホルダーから信頼される活動を一つ一つ積み重ね、従業員にとって誇りの持てる企業を目指すことで、ブラザーグループは持続的に成長していきます。



変革を恐れないブラザーの良き企業風土をさらに進化

ブラザーグループは1999年、グループ各社とグループ従業員の日々の意思決定と実行に関する「基本方針」と「行動規範」から成る「ブラザーグループ グローバル憲章」を制定しました。

「ブラザーグループ グローバル憲章」に示しているように、社会からの要請や技術の変革など、会社を取り巻くさまざまな環境変化を先取りし、あらゆるステークホルダーとの信頼を積み重ね、お客様や社会にとっての新たな製品やサービスを生み出すこと、すなわち優れた価値を提供することがブラザーグループの使命です。

グループ全体で優れた価値を提供する姿勢を貫き、事業を成長させてきたことにより、お客様をはじめとするさまざまなステークホルダーに与える影響も拡大し、それに伴いステークホルダーからの「要請や期待」も拡大しています。

こうした中、ブラザーグループはグループ従業員の「"At your side."の精神で、優れた価値を創造し迅速に提供する行動」を強化し、変革を恐れないブラザーの良き企業風土をさらに進化させ、中長期ビジョン「グローバルビジョン21」を達成していきます。

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

ブラザーグループでは、グループがグローバルに展開するすべての活動の礎であり、グループ各社とグループ従業員の日々の意思決定と実行に対する「基本方針」と「行動規範」から成る「ブラザーグループ グローバル憲章」を1999年に制定しました。「ブラザーグループ グローバル憲章」では、お客様をはじめとするステークホルダーの皆さまに対するブラザーグループの責任を明確にし、グループ各社とグループ従業員が、それを実践することでCSR経営を推進して参りました。

一方で近年、持続可能な社会の実現のために、企業が社会のなかで果たすべき役割と責任はますます重要性が増し、ブラザーグループに対するステークホルダーの皆さまからの要請や期待もさらに高まってきております。

こうした変化に対応し、企業としての責任を明確に定義し行動していくために、「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」を制定しました。これは、グループ各社が負う責任と行動の根本的な考え方を表明するものです。

本原則に基づき、ブラザーグループが一丸となって、事業を展開する全ての国や地域で求められる社会的責任を果たし、グローバルに統一感あるCSR経営を、積極的に推進していきます。そして、「Brother」というコーポレートブランドが、全てのステークホルダーの皆さまから信頼されるブランドとなること、ブラザーグループが、従業員にとって誇りの持てる真のグローバル企業として、社会とともに未来永劫に繁栄し続けることを目指します。

2012年1月27日
ブラザー工業株式会社
代表取締役社長
小池 利和

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

A. 健全な労働環境

ブラザーグループは従業員に健全な労働環境を提供することの重要性を認識し、すべての人に対して信義と尊敬を持って接し、基本的人権を守ります。また従業員にも同様の行動を求めます。

1. 差別および非人道的扱いの禁止

ブラザーグループでは、以下の差別および非人道的行為を禁じます。

- (1) 人種、年齢、性別、性的指向、妊娠、政治的信条、組合への加入、配偶者の有無、国籍、民族的背景、宗教、障がい等を理由にした違法な差別。
- (2) ハラスメントや嫌がらせ、体罰、精神的・肉体的強要、またはかかる対応を振りかざす行為によって人間の尊厳を傷つける行為。

2. 公正適法な労働慣行の維持

ブラザーグループは、労働時間、休暇、賃金、手当(最低賃金を含む)、残業等の労働条件について定めた現地の法令、管轄官庁の指導、または適切な現地の業界慣行に従うよう努めます。

3. 結社の自由

ブラザーグループは、活動する国や地域において法令によって従業員に認められる、結社の自由、労働組合に加入する権利、代表を要求する権利および労働者協議会に加入する権利を尊重します。

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

4. 強制労働及び児童労働の禁止

ブラザーグループは、以下のような、本人の自主的な意思に反し労働を強制したり、児童を雇用したりすることを許容しません。

- (1) 強制労働または意志に反する囚人労働を利用すること。
- (2) 雇用の条件として公的に発行された身分証明書または労働許可証の引渡しを義務づけること。(身分確認や公官庁での手続きのために一時的に提出を求めることは除く)
- (3) 15歳未満の者(または当該国の法律が14歳の就労を認めている場合は14歳未満の者)および現地の法律が定める義務教育修了年に満たない者を雇用すること。
- (4) 18歳未満の従業員が健康と安全を危険にさらす業務を遂行すること。

5. 懲戒方針の明示

ブラザーグループは、懲戒方針を設ける場合は、その手続きと共に社内規程に明記し、従業員に周知します。

6. 内部通報

従業員が、本原則、各社の行動基準、その他の社内方針、現地の法令への違反行為を見聞きした場合は、その旨をブラザーグループ内のしかるべき立場の者まで通報することを勧めています。本原則、社内方針、適用される法令に対する違反行為が適正に通報された場合、ブラザーグループは、必要に応じ、かつ現地の法律で認められる限り、通報者の匿名性を守ります。また違反行為を通報した者に対し、従業員が報復的な措置を取ることを禁じます。

B. 職場の安全衛生

1. 職場の安全

ブラザーグループは、関係法令に従い、安全で衛生的な職場環境を整備します。またブラザーグループは、職場における従業員の健康と安全を守るために、以下の措置を講じます。

- (1) 肉体を酷使する作業、電気その他のエネルギー源、火災、車両、化学物質や生物的・物理的因子への曝露などの潜在的な危険を査定し、適切に管理する。
- (2) 安全対策を施し適切に設計された職場を維持管理するとともに、必要な安全用具を常備する。
- (3) 安全作業手順・制度を実施する。また従業員教育を継続するとともに、労働災害・労働疾病の予防、管理、追跡、報告のための制度を設ける。
- (4) 避難訓練や復旧計画など、緊急事態および事故の発生を想定した対策ならびに対応手順を導入する。

2. 衛生的な設備

ブラザーグループは、従業員およびブラザー社内で働く第三者のために、清潔なトイレおよび給水設備を整備します。また調理・飲食施設がある職場では、かかる施設を衛生的に保ちます。

寮がある場合は、十分な維持管理を行い、清潔・安全に保ちます。また適切な非常口を設けるとともに、シャワー用の設備、適切な温度および換気設備、個人スペースを提供します。なお、以上についてはいずれも各国や地域の基準に準ずるものとします。

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

C. 地球環境の保全

ブラザーグループは、ブラザーグループ環境方針を定め地球環境の保全に努めます。具体的には、持続的発展が可能な社会の構築に向け、設計から開発、生産、使用、廃棄、再利用、再生に至る製品ライフサイクルの各段階を含む企業活動のあらゆる面で、必要とされる環境上の許可証、認可を取得するとともに、製品に含まれる物質の規制など国内外で適用されるすべての環境関連法令を順守します。さらに、汚染防止策や省資源化に努めます。

D. 倫理的誠実な事業活動

ブラザーグループは、企業活動のあらゆる面において、最高度の倫理観を持ち、最大限の誠意を尽くして行動します。

1. 公正な取引

ブラザーグループは、活動を行う国や地域において適用される公正な取引や市場競争に関する法令を順守し、市場での公正かつ自由な競争を阻害するような行為は行いません。また物品やサービスの調達に当たっても調達先の選定や取引条件の決定を公正に行います。

2. 適正広告

ブラザーグループは、関係する適正広告基準を守ります。誤解を招くような内容や、事実と異なる内容の広告を行わないよう努めます。

3. 不正便宜の禁止

ブラザーグループは、形式の如何を問わず、汚職、強要、横領に一切かかりません。また賄賂はじめ過剰または不適切な便宜を供与したり、受けたりしません。

4. 偽りのない正しい企業情報の記録及び開示

ブラザーグループは、財務関係記録を始めとする全ての必要な記録および報告を正確かつ適時に作成し、保管します。また、ブラザーグループは、関係法令に従い、株主、投資家および資本市場が十分な情報を得た上で投資判断を下すことができるように、財務状況ならびに事業情報を正確かつタイムリーに開示します。

さらに、ブラザーグループは、従業員が、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、インターネットメディア等に一個人として情報を発信する場合に、それがブラザーグループの公式見解と誤認されることがないように、従業員に適切な行動を求めます。

5. 情報管理

ブラザーグループは、厳格な情報管理制度を運用し、従業員が、ブラザーグループ各社、その他の組織、またはお客様に関する機密情報を、本人の承諾を得ずして、不法に第三者に開示することがないようにします。

6. 個人情報保護

ブラザーグループは、お客様、お取引先、および従業員のプライバシーを尊重し、現地のプライバシー関連法に依拠して、個人情報へのアクセスの制限や、セキュリティ対策を講じます。またブラザーグループは、お客様や従業員の名簿を含む個人情報を安全に管理するとともに、現地の個人情報保護法および自社のプライバシー保護方針の下で認められた場合を除き、または別途許可を受けた場合を除き、個人情報を入手しません。

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

7. インサイダー取引の禁止

ブラザーグループは、従業員に違法なインサイダー取引にかかわらないことを求め、インサイダー取引を予防する措置を講じます。違法なインサイダー取引とは、一般的に、ある株や証券についての重大な事実を知る者が、その事実が公表される前に当該株や証券を売買する行為を指します。

8. 知的所有権の保護

ブラザーグループは、ブラザーグループの知的所有権(特許権、商標権、著作権を含みますが、これだけには限定されません)の確保、維持、充実に努めます。また第三者の知的所有権を尊重します。ブラザーグループは、故意に他者の知的所有権を侵害しません。

E. 本原則実践のための社内体制

ブラザーグループは、本原則を実践するために、以下の各号を目的とする体制を整備します。

- (1) ブラザーグループ各社にて、本原則で定める水準を満たす各社の行動基準及び社内規程等を制定し、従業員にその順守を求める。
- (2) 本原則および各社の行動基準の運用はブラザーグループ各社の組織に応じ責任部門を明確にする。
- (3) 従業員が各社の行動基準を順守するための教育を継続的に行う。
- (4) 本原則および各社の行動基準が順守されていることを確認するために定期的に監査を行う。
- (5) 監査の結果、問題が発見された場合は、適時その解決をはかる。

ブラザー工業株式会社の法務担当執行役員は、ブラザーグループ各社における上記体制の実施状況を確認し、統括するとともに、社内体制のあり方を適宜に見直すものとします。

ブラザーグループのCSR

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスの基本的な考え方

「ブラザーグループ グローバル憲章」をすべての活動の礎として長期的信頼関係を築く

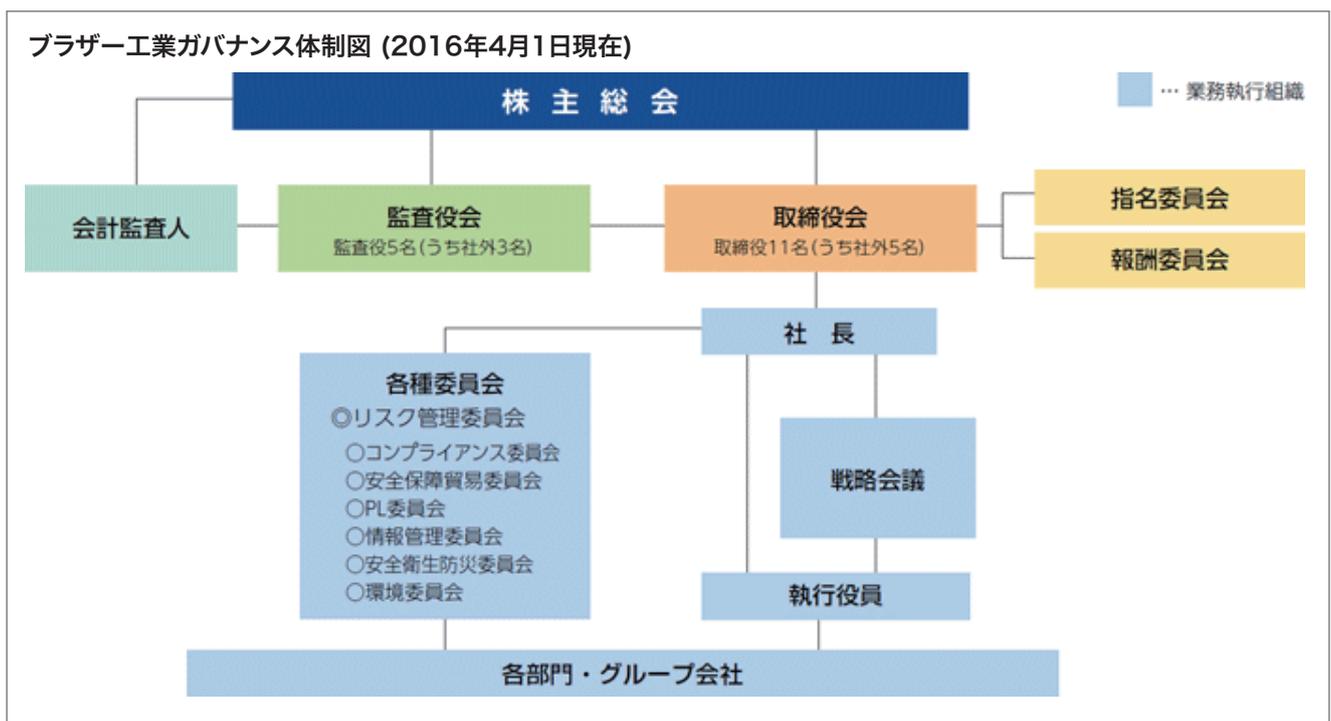
ブラザー工業は、ブラザーグループがグローバルに展開するすべての活動の礎として「ブラザーグループグローバル憲章」を定め、経営資源の最適化と顧客価値の創造により企業価値を長期的に高めること、さらに株主に対する積極的な企業情報の提供により企業の透明性を高め、株主との間に長期的信頼関係を築くことなどを、ブラザー工業のコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方としています。



株主総会

▶ブラザー・コーポレートガバナンス基本方針

<https://global.brother/ja/corporate/governance/policy>



ブラザーグループのCSR

コーポレートガバナンス

ブラザー工業のコーポレートガバナンス体制

監査役制度と執行役員制度を採用

ブラザー工業の取締役会は、取締役11名(うち社外取締役5名)で構成され、経営上の重要事項の決定と業務執行の監督にあっています。あわせて、ガバナンスの基本として監査役会制度(監査役5名、うち社外監査役3名)を採用し、取締役の職務執行を監査役が監査する体制を整えています。外部からの客観的・中立的な経営監視の仕組みとして、経営陣を監視する監査役による監査に加え、経営に対する監督機能の強化を図るため、異なる知見・経験などを備えた多数の独立社外取締役により監督する体制としています。

また、社内組織として執行役員制を導入することにより、業務執行と監督を分離し、意思決定の迅速化とガバナンスの強化を図っています。執行役員は取締役会で選任され、それぞれが担当する事業、各部門、およびグループ子会社の業務執行に対し責任を負っています。

▶役員一覧

<https://global.brother/ja/corporate/profile/executive>

指名委員会および報酬委員会の設置

取締役および執行役員の選任および報酬に関する取締役会の機能の独立性・客観性を高めるため、取締役会の任意の諮問委員会として「指名委員会」および「報酬委員会」を設置しています。各委員会は6名の取締役(うち社外取締役5名)で構成されています。

指名委員会は、取締役・執行役員の選任基準の策定、候補者の選定、および最高経営責任者などの後継者計画につき、取締役会に答申します。

報酬委員会は、取締役・執行役員の報酬方針・体系の策定、および報酬水準・個別報酬額のレビューを行い、取締役会に答申します。

リスク管理体制

ブラザーグループのリスク管理体制の整備を行うために、ブラザーグループ全体の重要なリスクを識別、評価し、適切な対応指示を行う独立した経営管理組織としてリスク管理委員会(委員長:代表取締役社長)を設け、内部統制と危機管理を含むリスク管理体制の充実を図っています。

また、リスク管理委員会を頂点に、その下部組織として以下の個別リスク委員会を設置し、それぞれの個別リスクに対応して、グループの重要なリスクを総合的にマネジメントしていく体制としています。発生時の影響が最高レベルと評価されたリスクについては「危機対応段階」と見なし、優先的に対応します。

コンプライアンス委員会

コンプライアンス(法令・企業倫理などの順守)に関する教育/啓発活動により、コンプライアンス意識の向上を図るとともに、違反行為の予防・再発防止に取り組んでいます。

安全保障貿易委員会

法規制に基づいて、適切な輸出取引や技術提供の管理にあっています。また、法改正時の重要な案件審議のための委員会開催や社内監査、グループ会社への指導・教育によって、管理水準の維持・向上に努めています。

ブラザーグループのCSR

コーポレートガバナンス

ブラザー工業のコーポレートガバナンス体制

PL委員会

商品企画から研究・開発、設計・製造、販売・使用、修理・サービス、廃棄・処理に至るすべての段階における製品の安全性を確保するため、定期的に委員会を開催し組織的な取り組みをしています。

情報管理委員会

情報漏えいリスクなどに対応するために、会社に存在する情報および顧客情報の適切な管理方針を定め、グループ内へ展開しています。

安全衛生防災委員会

法従業員の安全や健康の確保、災害の予防や災害時の被害の最小化を目的として、これらに関する年間計画の審議、各施策の策定・実施、啓発などの活動を行っています。

環境委員会

環境担当役員が議長を務め、開発・技術・製造・総務に関連する分野の各担当役員以上が参加し、定期的にブラザーグループ全体で取り組まなければならない環境課題に対する施策を審議・決定しています。

リスクマネジメント

多様なリスクを把握し、適切に対処するために

ブラザーグループは、事業活動に伴う多様なリスクを把握し適切に対処するために、「ブラザーグループリスク管理規程」を定め、リスク管理委員会を設置して、部門・地域・グループ会社ごとにリスク責任者を任命しています。責任者は、想定される多様なリスクについて影響度・発生頻度をそれぞれ5段階で評価。経営に大きな影響を与える可能性のある重大リスクを選別し、その対応策を検討しています。こうしたPDCAサイクルに基づいた活動によって、危機意識醸成と対応力強化を図っています。

2015年度は、リスク管理委員会を2回開催し、重要リスクを見直すとともに、取締役会に各委員会の活動状況を報告しました。これからも引き続き、リスク管理体制の整備を進めていきます。

ブラザーグループのCSR

内部統制

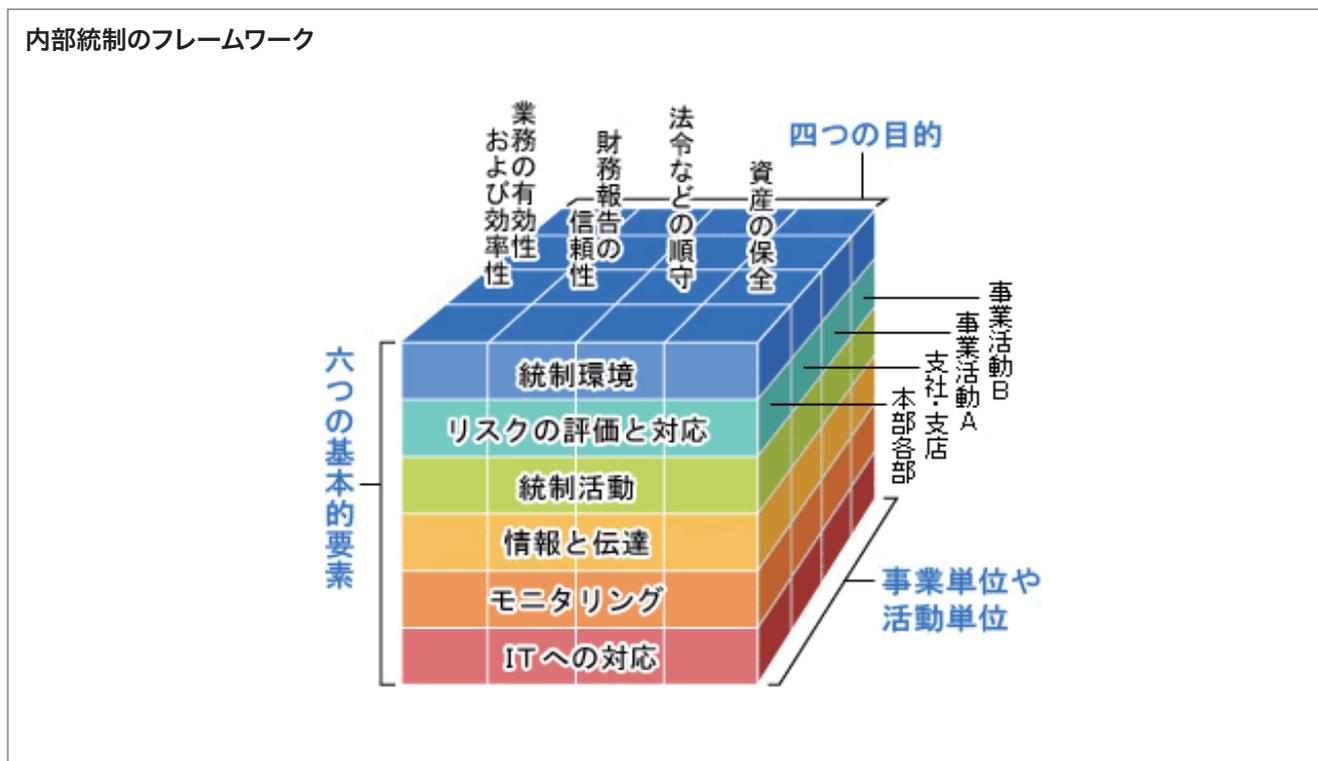
体制の整備と継続的なレベルアップ

財務報告の透明性と信頼性を確保するために

2006年5月の新会社法施行や、2009年3月期からの内部統制報告書提出義務化など、社会は企業の財務報告にいつそうの透明性・信頼性を求めています。ブラザーグループは、これを業務の効率化、リスク対応力の強化、グループ経営の推進、ひいては企業価値の向上を図る好機ととらえ、体制の整備を進めました。

そしてブラザーグループ各社は、毎年、内部統制が有効に機能しているかどうかをチェックリストなどで自己点検し、さらに内部監査部門が、独立的な観点からの監査を実施することで、継続的な内部統制の向上を図っています。また、M&Aなどの変化に対応しつつ、内部統制の目的や重要性、グループの活動状況などを共有するためのホームページをイントラネットに開設したり、各種研修を通じて理解をさらに深めてもらうなどの積極的な啓発活動も行っています。

これからも、経営を支える重要なインフラのひとつである内部統制の維持・向上を図ることで、社会からの要請である「財務報告の透明性と信頼性」の確保に努め、多くのステークホルダーから継続して高い信頼をいただけるよう努めていきます。



ブラザーグループのCSR

内部統制

地域統括会社と連携し内部監査を実施

内部統制のPDCAサイクル確立・向上を目指して

ブラザーグループは、2015年度に、海外18社・国内4社のグループ会社で内部監査を実施しました。これは、内部統制に係るPDCAサイクルをより確かなものとし、業務のさらなる透明化・効率化、リスク対応力の強化を図るためです。

ブラザーグループの監査は、ブラザー工業と米州・欧州・亜州の地域統括会社などの内部監査部門が密に連携して実施し、より現地の実態に則した監査を行っています。さらに、ますますグローバルで重要となる内部監査機能の強化を図ることを目的として、2010年から数えて7回目となる「グローバル内部監査会議」を開催し、地域統括会社やブラザー工業内部監査部・財務部・IT戦略推進部から総勢20名ほどが参加しました。

今後は、新中期戦略「CS B2018」の達成に向けて、(1)グループとして、より適切な内部統制システムの構築、(2)現場部門の内部統制に係るPDCAサイクルの自立化推進、(3)グループ内の各監査機能部門の連携・情報共有による監査の効率化を目標に、M&Aなどの変化に対応しつつ、ブラザーグループ全体の内部統制機能の維持向上を図ります。



グローバル内部監査会議

ブラザーグループのCSR

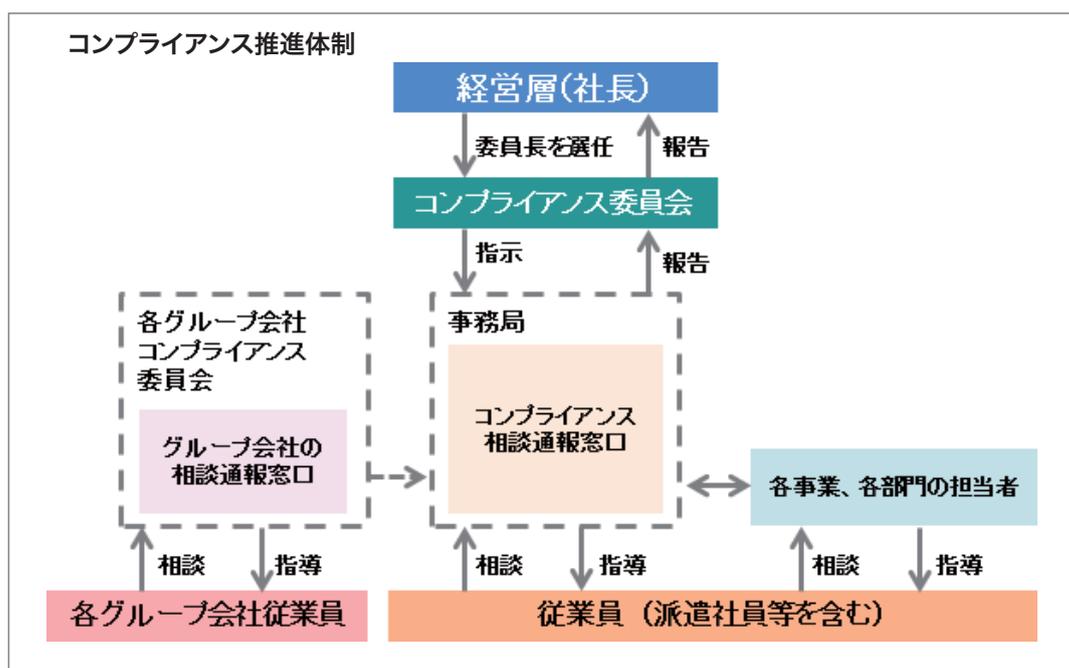
コンプライアンス

コンプライアンス体制

CSR経営の基盤として法令・倫理の順守を徹底

ブラザーグループは、コンプライアンス(法令・倫理の順守)がCSR経営の基盤を支え、さまざまなリスクを回避する上で不可欠なものであると考えています。グループ全体でコンプライアンスを徹底するために、「ブラザーグループ グローバル憲章」の行動規範のひとつである「順法精神・倫理観」および、企業としての責任を明確に定義し行動していくための「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」に基づいて従業員の行動基準を定めています。また、コンプライアンス委員会を設置し、相談通報窓口(ヘルプライン)を設けて不祥事の未然防止や早期対応、再発防止に努めています。海外を含むグループ各社でも個別にコンプライアンス委員会、通報窓口を設置して対応しています。また、重要案件については、グループ各社のコンプライアンス委員会だけでなく、ブラザー工業のコンプライアンス委員会にも通知され、グループ一体となってコンプライアンスリスクへ対応する体制を築いています。

ブラザーグループは、これからもグローバルな展開を視野に入れて、引き続き活動を続けていきます。



ブラザーグループのCSR

コンプライアンス

グループ従業員の意識向上に向けて活動を強化

研修・ハンドブックなどでの啓発活動と、コンプライアンス体制の維持向上

ブラザーグループは、従業員のコンプライアンス・倫理意識の向上を目的に、「コンプライアンス ハンドブック」を発行し、国内グループ会社の従業員に配布しています。

このハンドブックは、「ブラザーグループ グローバル憲章」に基づくコンプライアンス行動基準、具体事例集に加え、クイズ形式による学習項目に多くのページを割き、従業員が自ら学ぶことができる内容になっています。さらに、日々の行動で迷うようなことが起きた場合には、自らの行動をチェックできるコンプライアンス・カードを国内外グループ会社を含めた従業員に配布しています。

教育啓発活動としては、各種集合研修(新入社員研修、定期開催の基礎研修、海外赴任前研修など)や、e-ラーニングシステムによるオンライン研修を実施しています。また、従業員がより安心して相談できるように、外部相談窓口を設置しています。

さらに、コンプライアンス体制のグローバル展開として、中国、ベトナム、フィリピンなどの生産拠点でのコンプライアンス体制の整備状況や教育状況について再確認を行い、その結果に基づき教育啓発活動の強化を図るなど、グループとして適正なコンプライアンス体制の維持向上に努めています。

他にも、近年の法規制の動向を踏まえ、各国の贈収賄防止法や独占禁止法等のコンプライアンス順守のために、法令の調査やグループ各社への教育啓発に努めています。

ブラザーグループは、これからも「ブラザーグループ グローバル憲章」および、「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」に基づいて、グローバル視点でのコンプライアンス体制および教育を強化し、企業不祥事の未然防止や倫理意識のいっそうの向上に取り組んでいきます。体制および教育を強化し、企業不祥事の未然防止や倫理意識のいっそうの向上に取り組みます。



コンプライアンス集合研修風景

ブラザーグループのCSR

情報セキュリティ

情報を適正に管理・保護するために

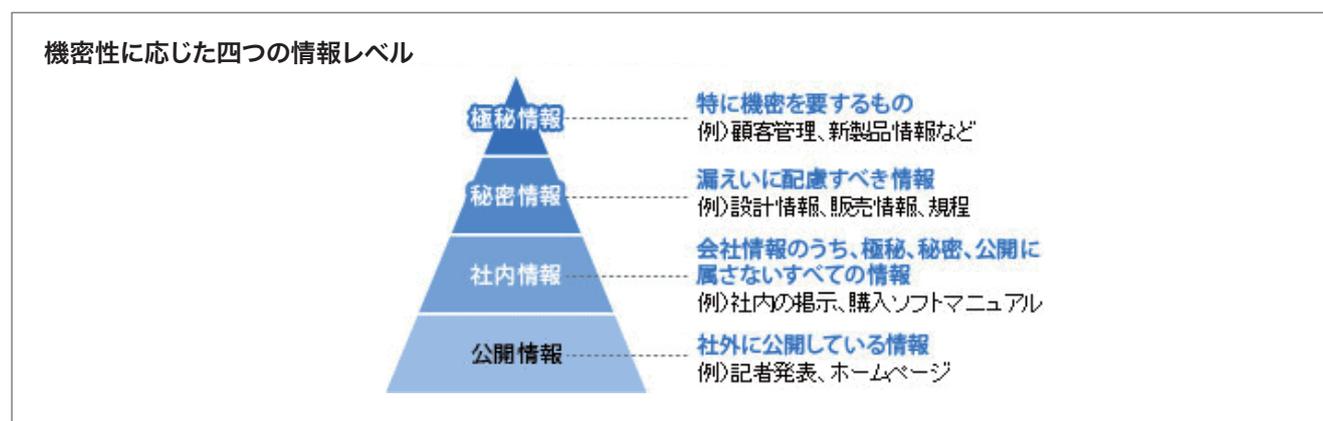
グループ情報管理規程を策定

ブラザーグループは、情報の適正な管理・保護を、経営品質維持のための基盤と位置づけています。M&Aによるブラザーグループの拡大に対応するため、2014年度にグループ情報管理規程を定めました。情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)に準拠した規程でグループ内の情報管理を統一したことにより、グループ内での情報共有の安全性をさらに高めました。

ブラザー工業の情報管理委員会を頂点として、米州、欧州などの地域統括会社が、その管理下にある子会社の情報管理活動の実施に責任を持つよう、その役割を明確にしました。これによりブラザー工業情報管理委員会での決定事項を全グループ会社に確実に浸透させるとともに、子会社の情報管理状況の把握も容易になりました。

また、グループ全体でさまざまな項目について統一したセキュリティ基準を定めました。これによりブラザーグループで扱う情報は、グループ会社のどこにあっていても同一レベルのセキュリティレベルで管理することができます。

例えば、ブラザーグループで扱う情報をその機密性に応じて4段階に区分し、情報の保管・アクセス・廃棄などのルールを定めています。



情報流出防止対策の強化

外部からの不正アクセスへの対策

外外部から侵入してくる不正アクセスについては、インターネットからの入口、社内ネットワーク上、インターネットへの出口の3段階において不審な行動を捉え、情報の流出を防止しています。例えば、メールによる標的型攻撃については、インターネットの入口で不審なメールを削除し、社内ネットワーク上ではコンピュータウイルスなどの不正プログラムの動きを監視し削除します。またインターネットへの出口では通信先が危険なサーバーである場合は通信を阻止して情報の流出を防止します。

内部における不正行為への対策

社内では情報の取り扱い方法についてルールを定め、eラーニングなどにより従業員に周知することで、誤って危険な行為をしてしまうことを防いでいます。万一不適切な行為があった場合は、各パソコンにインストールされているセキュリティツールなどによる情報の取り扱い記録からルール違反を発見し、責任者に報告しています。また、この仕組みで各パソコンを管理していることを社内に通知することにより、不正行為を抑止しています。

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

グローバル憲章に基づいたブラザーグループCSR経営の課題

各地域が自律的に取り組みを推進

ブラザーグループは、世界の各地域で多くの事業を展開しています。そのような中でCSR経営を推進するために、各地域は、すべての活動の礎である「ブラザーグループ グローバル憲章」(以下、グローバル憲章)に基づいて抽出したCSR経営の課題に対し、それぞれの業務の特性、地域の文化・慣習を考慮して、自律的な取り組みを行っています。

ステークホルダー	ブラザーグループ グローバル憲章	項目
お客様	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる場面でお客様第一を考える グローバルな市場から求められる多様な要請や期待にすばやく応える 定められた事業領域内で限られた経営資源を有効活用する 相互協力のもと、お客様中心の事業一貫経営をグローバルに展開する 	お客様第一のマーケティング・商品企画・開発設計(各事業)
		お客様第一の安全・安心な製品設計
		お客様ご迷惑率を低減させる設計品質(各事業)
		お客様ご迷惑率を低減させる製造品質(各事業)
		お客様第一の物流・販売・サービス体制(各事業)
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 従業員の多様性を尊重する 人格、多様性の尊重、信義と尊敬 	多様な人材の確保
		多様な働き方の支援
	<ul style="list-style-type: none"> 従業員がさまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供する 	各地域での人材育成
		次世代の成長を担うグローバル人材の育成
	労働安全衛生	
	<ul style="list-style-type: none"> 従業員の努力と成果に対して、公平な評価と正当な報酬で応える 	適切な評価制度
	<ul style="list-style-type: none"> 従業員に社会の模範となる行動を求める 従業員に会社との価値観の共有を求める 	グローバル憲章の共有
従業員が誇りをもって働ける職場風土創り		
最高度の倫理観の醸成		
ビジネスパートナー	<ul style="list-style-type: none"> 常に公平・公正な取引を行う 信頼関係に基づいて成長しあう 	CSR調達の推進
		仕入先パートナーとの協働
		物流パートナーとの協働
		販売パートナーとの協働

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

グローバル憲章に基づいたブラザーグループCSR経営の課題

ステークホルダー	ブラザーグループ グローバル憲章	項目
株主	・ 積極的な情報公開を行い、株主との間に長期的な信頼関係を築く	IRコミュニケーション
		社会的責任投資株価指数の構成銘柄
地域社会	・ 地域に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担する	「地球環境への配慮に関連した活動」「『地域』『人づくり(従業員を含む)』を意識した活動」にテーマを絞った各地域での自律的な社会貢献活動
		グローバルに統一感を持った社会貢献活動
環境	・ 持続的な発展が可能な社会の構築に向け、企業活動のあらゆる場面で地球環境への配慮に前向きで継続的な取り組みを行う	CO ₂ 排出量・廃棄物削減の推進(地球温暖化の防止)
		消耗品・製品の回収リサイクル(循環型社会形成)
		化学物質や排水の適正管理
		環境社会貢献活動の実施(可能な限り生物多様性を意識した活動)
		環境コミュニケーションの実施(「Brother Earth」、イベント、教育、ダイアログなど)
ガバナンス	・ 活動する国や地域における関連法規、規制を遵守し、文化を尊重する ・ 最高度の倫理観を持って行動する	グローバルガバナンス体制の構築
		内部統制の推進
		コンプライアンスの推進
		情報セキュリティの推進

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

2015年度の活動計画と実績、および2016年度の活動計画

ステークホルダー	2015年度の活動計画	2015年度の実績
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラザーブランドの認知度向上 ・SNSを活用したブランド認知度の向上 ・お客様満足度調査 ・ディーラー網の強化・拡大(中国) ・主要製品の重要な品質に対して、お客様視点の新たな評価技術を確立し、目標設定とその妥当性を検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域でソーシャルメディアを活用したブランド認知度の向上活動を実施 ・各地域でWebを利用したお客様満足度調査を実施 ・対昨年でディーラー網を拡大・強化(中国) ・P&S事業の主要製品に関する重要な4つの品質「給紙搬送、画品質、使用品質、音質」に対するお客様視点の新たな評価技術の確立と、その有効性を確認
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル憲章浸透活動、および拠点間連携の促進 ・チャレンジ風土の醸成、および国を超えての連携強化 ・グローバル人材育成(海外拠点幹部人材育成、グローバル採用) ・女性活躍推進 ・安全衛生活動推進 ・従業員意識調査の実施 ・若手人材の育成「Look to the Future」イベントの開催(欧州) ・次世代リーダーの育成(亜州) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「チャレンジ風土の醸成」をテーマにしたグローバル憲章浸透活動を各拠点で実施 ・グローバル共通での幹部人材教育や、拠点の特性に応じた専門教育の実施 ・女性活躍推進ワーキンググループの提言を受け、社内講演会やキャリア支援など女性従業員本人や管理職向けの施策を展開 ・経済産業省の平成27年度「新・ダイバーシティ経営企業100選」選定(日本)
ビジネスパートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスパートナーとのCSR勉強会の実施 ・ビジネスパートナーへのCSRアンケート実施依頼、回収 	<ul style="list-style-type: none"> ・各拠点でビジネスパートナーとのCSR調達などの勉強会、アンケートの実施

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

2015年度の活動計画と実績、および2016年度の活動計画

ステークホルダー	2015年度の活動計画	2015年度の実績
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災復興支援活動 ・グローバルに一体感をもてる従業員参加の社会貢献活動としてリレー・フォー・ライフや類似イベントへ各拠点が参加 ・それぞれの地域に密着した社会貢献活動 ・事業と連動した社会貢献活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災など、大規模災害に対する復興活動への継続的な支援 ・タイで独自のチャリティマラソンイベントを実施するなど、グローバルで一体感もてる従業員参加の社会貢献活動(リレー・フォー・ライフや類似のイベント)に世界各地の拠点が参加 ・拠点が所在する地域の教育施設への支援や清掃活動の実施 ・教育機関との刺しゅう技術開発、および人材育成の提携、職業訓練校にミシン提供(中国) ・業務で培ったスキルを活用したプロボノ活動(東海若手起業塾)を継続(日本)
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラザーグループ全体でのCO₂排出量削減目標を実現するための省エネ活動 ・使用済みカートリッジの回収活動 ・製品輸送時のCO₂排出量データの収集 ・ISO 14001活動 ・環境スペシャルサイト「brotherearth.com」によるクリック募金の実施と環境意識の向上促進 ・植林活動 ・ブラザーグループエコポイント活動 ・水保全活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点ごとにCO₂排出量の目標値を設定し省エネ活動を実施 ・グローバル各拠点で地域社会と協力した植樹活動を実施 ・回収量に応じた寄付をするなど、使用済みのトナー/インクカートリッジ回収活動をグローバルで展開 ・拠点ごとに廃棄物の目標値を設定し、事業活動で発生する廃棄物の削減やリサイクルを実施 ・環境スペシャルサイト「brotherearth.com」のクリック募金を通じた環境保護活動の支援

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

2015年度の活動計画と実績、および2016年度の活動計画

2016年度の活動計画

CSR経営の課題に対して、各地域が取り組む2016年度のさまざまな活動計画から、代表的な取り組み計画を抜粋してステークホルダーごとに掲載しています。

ステークホルダー	2016年度の活動計画
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種製品・サービスの開発に直結した、お客様訪問調査による顧客価値の向上 ・ 多様化するお客様からの問い合わせ対応能力の向上 ・ お客様視点の新たな製品信頼性評価技術の革新と、品質問題ゼロを目指す出荷保障体制の確立 ・ SNSなどを活用したお客様とのコミュニケーションの向上 ・ 快適性を追求した使用品質の向上
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル憲章浸透活動、および拠点間連携の促進 ・ ブラザーグループ中期戦略CS B2018達成に向けた風土醸成活動 ・ グローバル人材育成(海外拠点幹部人材育成、グローバル採用) ・ 女性活躍推進 ・ 安全衛生活動推進 ・ 次世代リーダーの育成 ・ 従業員意識調査による満足度の向上
ビジネスパートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスパートナーとのCSR勉強会の実施 ・ ビジネスパートナーへのブラザーグループのCSR活動紹介 ・ 優秀ビジネスパートナー表彰
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模自然災害に対する復興支援活動 ・ グローバルに一体感ある社会貢献活動(リレー・フォー・ライフおよび類似イベント)への従業員参加 ・ それぞれの地域に密着した社会貢献活動
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラザーグループ全体でのCO₂排出量削減目標を実現するための省エネ活動 ・ 使用済みカートリッジの回収活動 ・ ISO 14001活動 ・ 環境スペシャルサイト「brotherearth.com」による環境意識の向上 ・ ブラザーグループエコポイント活動 ・ 植林活動 ・ 水保全活動の推進 ・ 地域と協力した環境保全活動 ・ 生物多様性保全・愛知ターゲットの周知活動

ブラザーグループのCSR

第三者意見

ブラザーグループの2015年度のCSRへの取り組みに対する第三者意見

当意見は、ブラザーグループのCSRへの取り組みに関する本ウェブサイトの記載内容、および同社の環境、購買、品質・顧客満足、人事、コーポレート・コミュニケーション、CSRの各担当者へのヒアリングに基づいて執筆しています。

同グループのCSRへの取り組みは、社内外への多言語での積極的な発信、グローバル経営を支える人的多様性の拡充など、広範な項目について、グローバルなマネジメント・サイクルを適切に進めていると言えます。

高く評価すべき点

- ・ 同社のCSRの基本原則となる「ブラザーグループ グローバル憲章」(以下、グローバル憲章)の共有について、27言語に翻訳され、世界各地に約580人のグローバル憲章共有リーダーが任命されて活動していること、社長やトップマネジメント層がその実践をそれぞれ約束(コミットメント)し、中国7拠点が合同で「中国横串共有リーダー会」を開催していること、ベトナムでも企業理念や行動規範を日常に当てはめて考えられるよう「約束カード」を作成し全従業員が共有する機会を設け続けていること。特に中国の拠点では生産現場で働く員工の方々とも共有するために朝礼時間中に紹介できる紙芝居形式のツールが現地主導で開発されるなど、拠点・職場における共有が高い水準で進められていることは、世界的にベンチマークされるべき水準にあると高く評価します。今後も、「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」と合わせて、2020年代に向けてチャレンジが求められる課題を設けるとともに、共有リーダーを中心とした各地・部門の取り組みや工夫、特に人権や環境負荷削減について、地域や部門を超え、取引先も含めバリューチェーン全体で共有されることを、引き続き強く期待します。
- ・ 人的多様性の向上と活用について、幹部・管理職人材対象の育成計画(拠点サクセッションプラン)に基づく研修などにより、主要拠点である中国において幹部管理職層の半数以上が現地人材で占められ、ベトナムやフィリピンにおいても研修が継続して実施されるなど取り組みが進んでいること。今後も、中長期的なグローバル人材ポートフォリオ戦略に基づき、育成と活用の基盤が拡充されることに期待します。また、障がい者雇用についても、雇用率が2.11%に達していること。今後は、障がい者や日本で働く外国人などが、同じ属性の従業員と交流し相互に相談しあえる関係・環境づくりに、引き続き強く期待します。
- ・ サプライヤーへの働きかけについて、環境・人権・労働・安全衛生・公正取引・企業倫理・情報セキュリティ・社会貢献などに関して計80問で構成される「CSRレベル調査ツール」に基づくサプライヤー自身による自己評価を計428社から回収するとともに、優秀な事例には「CSR表彰」を行い、受賞企業を紹介するとともに、点数の低い取引先には是正も求めていること。今後は、近く発行予定のISO20400を視野に、二次取引先への働きかけや、安全、環境、人権に関する項目への取り組み状況の定量的かつ正確な把握と、業種・規模別など集計結果のフィードバックに基づく改善が促進されることを期待します。



IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]
代表者 兼 ソシオ・マネジメント編集発行人
川北 秀人

川北 秀人

ブラザーグループのCSR

第三者意見

ブラザーグループの2015年度のCSRへの取り組みに対する第三者意見

取り組みの進捗を評価しつつ、さらなる努力を求めたい点

- ・ 環境負荷の削減について、国内外の生産・販売会社で温室効果ガスの排出総量削減を積み重ねているとともに、国内では窓や塗装など、外気温による影響を抑え、従業員満足度の向上にも結び付く断熱を進めたことを評価しつつ、今後は、2030年以降も視野に入れた長期目標への取り組みを進めるとともに、施設管理部門を含む生産現場全体が連動したエネルギーのジャスト・イン・タイム化や、SCOPE3への対応としても、ユニバーサル・デザイン・フォントの使用推奨、トナーセーブや2in1印刷などを標準設定とした出荷など、使用段階での環境負荷削減を促すことも引き続き強く期待します。
- ・ 品質管理と顧客満足の向上について、お客様ご迷惑率という独自指標に基づいて状況を定量的に把握し、不具合への対応から予防までを体系的に進めていることを評価しつつ、今後は、不具合の要因分析にもとづき、顧客とのコミュニケーションを通じて、使用段階での最適化が促されることを期待します。
- ・ 働き続けやすい職場づくりについて、介護セミナーをこれまでに計50回開催し、受講者が40歳以上の従業員の45%に達し、ケアプラン作成サポートツールの提供や地域包括ケアセンターを招くなどの取り組みを高く評価するとともに、今後は育児・介護・看護のための休暇・休職・短時間勤務制度の利用率(ブラザー工業で、継続を含み8.93%)をさらに高められるよう、現場の課題の把握と解消がさらに進むことに期待します。また、従業員の不安や困りごとに協力・対応する「なんでも相談」窓口については、労働組合の契約先による対応が拡充されていることを評価しつつ、家族に関する悩みごとに関する事例の積極的な紹介など、利用を促す取り組みが進むことを引き続き期待します。
- ・ 事業継続計画(BCP)について、人命の安全確保を第一とした事業継続の基本原則に「地域貢献」も明文で位置づけ、事業所に近い保育園の救援訓練も実施していることを評価するとともに、今後は、家族の安全確保への協力も推進されることを引き続き期待します。
- ・ 社会貢献活動について、従業員の日常的な環境負荷削減への取り組みによる「ブラザーエコポイント活動」に、世界のブラザーグループ従業員数の半数を超える2万人以上が参加するとともに、各国の従業員が自発的に、地域のニーズに基づいて、同社の精神や事業を生かした取り組みを進めていること。今後は、世界共通の基本方針のもとで、社会への投資として戦略的に推進されることを引き続き期待します。

グローバル企業として、取り組みの進展が期待される点

- ・ 多様なステークホルダーとのコミュニケーションについて、社長や役員などトップマネジメント層による従業員向けの発信が多数かつ多言語で行われていることを高く評価するとともに、今後は、NGOなど社外のステークホルダーとの対話の機会を、特に欧州において積極的に設け、次に取り組むべき社会的課題について学び、協働して取り組むきっかけに結び付けること、また、すぐれた取り組みを社内外に発信するための契機として、“At your side.”の視点から評価する評価・表彰制度の創設を、引き続き強く期待します。
- ・ 生物多様性や水資源への配慮・対応について、愛知ターゲットの進捗を確認する会議まであとわずか5年しかないことを踏まえて、今後は、印刷に不可欠な紙、ミシンによる縫製に不可欠な布の素材を供給する生態系のリスクへの理解・共有をさらに進め、Brother Earthとの連動も含めて、人材育成をはじめとする保全への取り組みを拡充することを引き続き期待します。

IIHOE

地球上のすべての生命にとって、民主的で調和的な発展のために」を目的に1994年に設立されたNPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業のCSR支援も多く手がける。

▶ <http://blog.canpan.info/iihoe/>

お客様とともに

ブラザーグループは、あらゆる場面でお客様を第一に考え、モノ創りを通して優れた価値を創造し、迅速に提供します。そしてお客様との間に長期的な信頼関係とロイヤルティーを築きます。

お客様第一の製品開発

- ・お客様の声を的確にタイムリーに反映する仕組み
- ・お客様のニーズに沿った品質基準の設定

お客様ご迷惑率の低減

- ・お客様視点に基づく「お客様ご迷惑率」という考え方
- ・お客様訪問を通じた品質改良

安全・安心な製品設計

- ・お客様視点を製品の隅々にまで反映する「顧客品質基準」の考え方
- ・顧客検証の推進

物流・販売・サービス体制

- ・電話対応に加え、新たな窓口を導入し顧客サービスを強化

お客様とともに

お客様第一の製品開発

お客様の声を的確にタイムリーに反映する仕組み

多面的な調査によって「潜在的なご要望」まで描き出し、製品に具現化します

ブラザーグループは、お客様の声をすべての事業活動の原点と考え、さまざまな場面でご意見やご要望をお聞きし、データベース化しています。

特に新製品の企画段階では、企画開発スタッフがお客様への訪問、グループインタビュー、ウェブサイトでのアンケートなどを通じて、製品の使用環境やご感想・ご要望などを幅広く深く調査し、お客様ご自身も意識されていない「潜在的なニーズ」を顕在化させて次の製品開発に反映します。

こうして、お客様のニーズにジャストフィットする機能・サイズ・デザイン・価格として具現化し、お客様に新たな価値をご提供できるよう努めています。



お客様の声を製品開発に反映する仕組み

お客様のニーズに沿った品質基準の設定

SMB市場向けの品質基準を明確にし、製品の開発・評価に反映しています

従来、製品開発のターゲットとしていたSOHO(スモール・オフィス・ホーム・オフィス)市場に対し、SMB(スモール・アンド・ミディアム・ビジネス)市場では、お客様の製品に対する要求が異なっている場合があります。

そこで、レーザープリンター・複合機に対するSMB市場のお客様の要求を調査し、お客様が求める品質を明確にすることに取り組みました。

具体的には、SMB市場のお客様やディーラーを訪問し、プリンターや複合機などの設置状況、使用状況の調査を実施しました。また、お客様やディーラーから製品に対する要望も直接お聞きしました。使用状況や要望から、お客様やディーラーが重要視するポイントが判ってきました。製品の信頼性、操作性はもちろんのこと、お客様が五感で感じる、製品の剛性、印字後の音、ファンからの風なども重要なポイントであることが判明しました。そこで、製品の外観(剛性)や操作性について、お客様が実際に製品を操作した際の感触をアンケート形式で聞き取り、数値化しています。数値化することにより、他社製品との比較も客観的に示すことができ、自社製品の劣っている点や優れている点も明確にすることができるようになりました。そうしたうえで、製品に改良を加え、その効果を製品評価で確認、検証することにより、お客様により満足していただける製品の出荷へとつなげています。現地に出向き、常にお客様視点で活動することにより求められる品質を把握することで、新たな品質基準の設定、製品評価に反映することができます。

ブラザーグループは、常にお客様を中心に考え、より優れた製品・サービスをお届けしていきます。



五感品質検証(剛性)



五感品質検証(操作性)

お客様とともに

お客様ご迷惑率の低減

お客様視点に基づく「お客様ご迷惑率」という考え方

製品出荷後の不具合発生を限りなくゼロに近づけること

ブラザーグループでは、お客様から返品または修理のために戻ってくる製品の割合を「お客様ご迷惑率」と定義しています。これは、どんな小さな不具合でも、そのためにご負担いただかなければならない時間や手間は、お客様にとって「ご迷惑以外の何ものでもない」という考え方によるものです。不具合発生を限りなくゼロに近づけるため、それがなぜ起きているのかを究明し、開発設計・製造・物流・販売・サービスなど各部門が一体となって「お客様ご迷惑率」低減のための品質向上活動を続けています。

お客様訪問を通じた品質改良

よりお客様について知るためにお客様を訪問し、不具合発生原因を確認

ブラザーグループは、お客様に感動や満足を感じていただける製品を提供することを目指しています。そのためには、お客様の使用状況を把握することがとても重要です。日々寄せられるプリンター・複合機などに対するお客様からの修理依頼やコール情報をもとに、ブラザーでは不具合を再現できない場合には、その不具合を申告されたお客様を直接訪問し、お客様がどのような環境で、どのように製品を使用しているかを調査する活動を行っています。

例えば電話やファクスの不具合は、製品自体の問題以外にお客様の設置環境や使用状況により発生している場合があります。ある直接訪問の事例では、インクジェット複合機「MFC-J870N」において、ファクス受信には問題がないものの、一部送信先にだけエラーが出ていました。そこでお客様の製品の設置環境や接続状態を記録し、検証機と置き換えてもエラーが出るかなど、お客様の使用環境下で測定を実施しました。すると「MFC-J870N」を置く位置や回線の引き回し方(図1)により外部からのノイズが重なり、1や7の番号のプッシュ信号が認識できていないことが判明しました(図2)。回線電圧や周波数レベルを詳しく測定することで製品側の故障ではなく、製品に内蔵されているモデム(変調復調装置)とPBX(構内交換機)のマッチングが原因ということが分かりました。ノイズフィルターを追加して揺らぎを抑え、ラインコードの位置を変更することで不具合を改善することができました。

このような直接訪問により不具合の発生原因を特定することで、ただ回収して修理するだけでは分からない、さまざま不具合の要素に気づくことができます。それを今後のお客様へのソリューションやアドバイスに活かすことはもちろん、製品改良にもつなげています。さらに、さまざまなお客様の使用環境や使用条件に対応した「評価標準」にも反映させ、新たに開発する製品の評価にも役立てています。

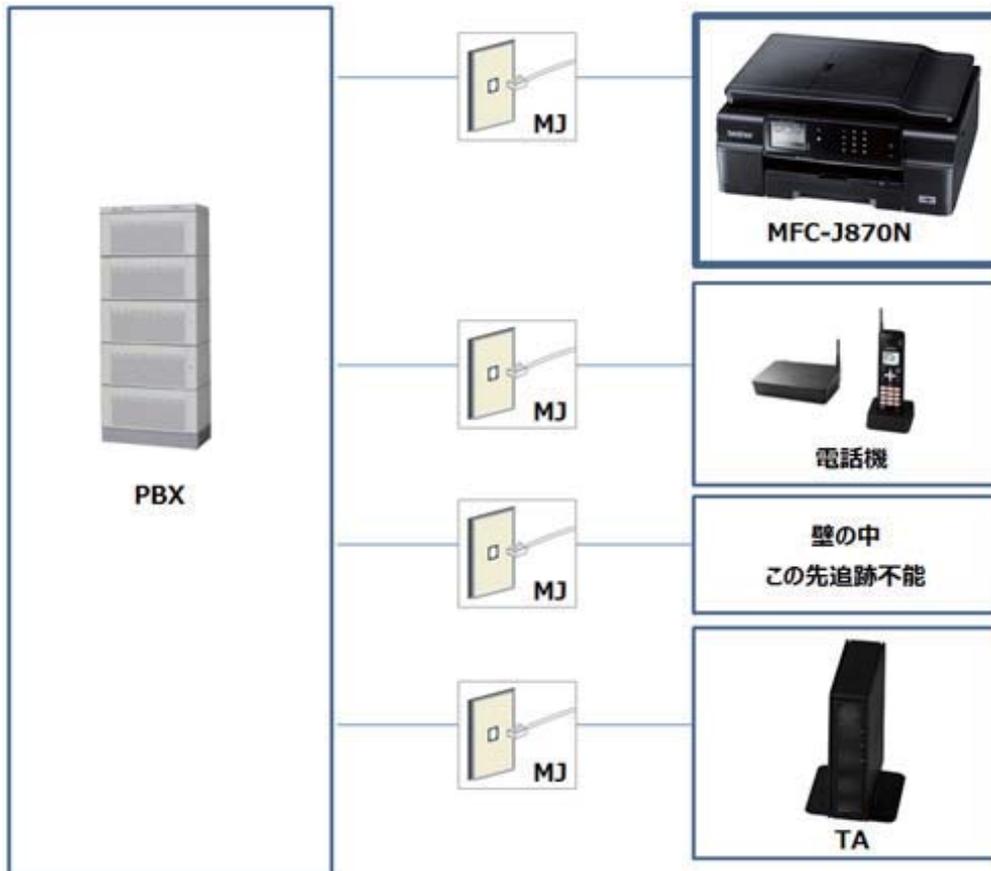
ブラザーはこのような事例をひとつひとつ検証しながら、お客様の立場に立った製品開発とサービスを徹底し、「お客様ご迷惑率」の低減に全力で取り組んでまいります。

お客様とともに

お客様ご迷惑率の低減

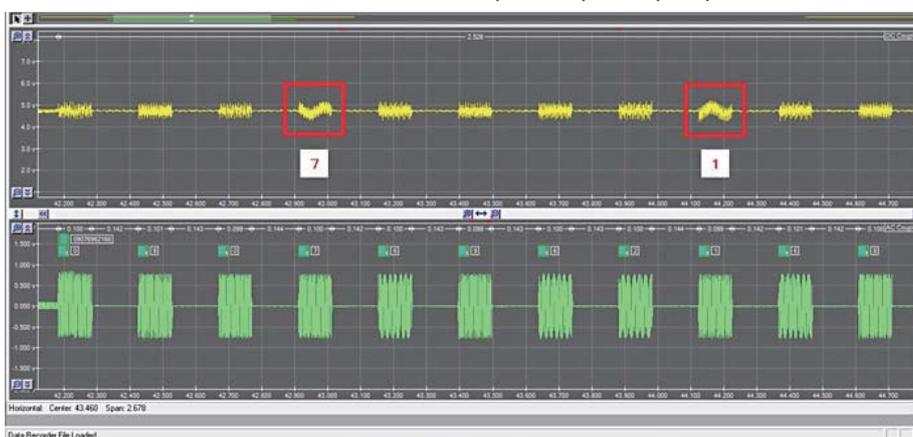
お客様訪問を通じた品質改良

お客様の製品接続状況 (図1)

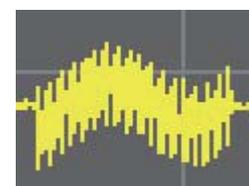


今回直接訪問したお客様の「MFC-J870N」、PBX、電話機などの接続状況。PBXを介した3つの口のの一つにMFC-J870Nが接続されていた。
*: PBX:構内交換機、MJ:モジュラージャック、TA:ターミナルアダプタ

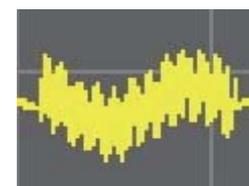
お客様の使用環境下で測定したプッシュ信号(DTMF)波形 (図2)



プッシュ信号(DTMF)の波形を表したもの。
上(黄色の波形): お客様の使用環境下での測定波形
下(緑色の波形): 正常波形



左(黄色の波形): 1の拡大波形



左(黄色の波形): 7の拡大波形
ノイズの影響で1と7の番号のプッシュ信号が揺らいでいる。

お客様とともに

安全・安心な製品設計

お客様視点を製品の隅々にまで反映する「顧客品質基準」の考え方

安全に使い続けていただける製品設計に向けて

世界中の国や地域でご利用いただいているブラザー製品は、その設置環境や使用方法がたいへん多様になっています。また、お客様のライフスタイルの変化に伴い、製品に対する期待も日々変化しています。

品質保証担当部門では、市場で起きた様々な問題に関わる情報をデータベース化したり、競合他社の新製品を評価したりして、そこから得られた情報から製品の品質基準と評価方法を構築しています。さらに、お客様が安心して製品を使い続けることができるように、その対策を設計段階から織り込み、ブラザーらしさを体感していただける製品づくりをしています。この目標値を取り決めたものが「顧客品質基準」であり、ブラザーグループのモットーである"At your side."の精神を製品開発に反映したものです。

「顧客品質基準」は固定されたものではなく、修理依頼やコールセンターに寄せられる情報、あるいは製品に対するお客様の期待の変化に伴い、常に精査して見直しを図っています。

顧客検証の推進

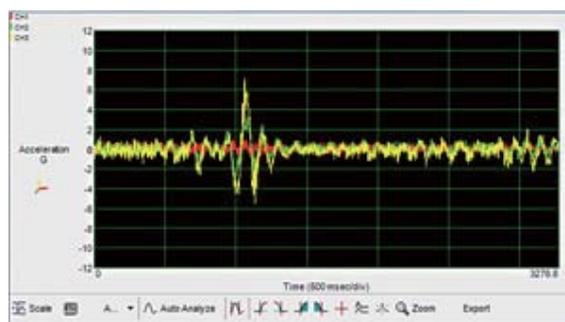
お客様の製品使用シーンを想定し、製品に反映

製品カテゴリーにより、お客様の使用方法が異なるため、製品使用シーンを想定して、製品開発に反映することが重要です。

例えば、モバイル製品は、お客様が使いたい場所に自由に持ち運び、使用されます。お客様の移動手段は、車だけでなく、バイクや自転車などさまざまです。私たちがお客様に期待するのは、製品を上向きにして静かに持ち運んでいただくことですが、実際には天地を逆にしてかばんに入れ、その中で繰り返し大きな衝撃を受けているような事例を確認できました。そこで、自転車、バイク、自動車に振動状態を記録する測定器を積んで、実際の運搬による振動を測定し、その結果をモバイル製品の振動試験の条件に反映しました。

また、モバイル製品の評価をより実使用条件に近く、車載時のさまざまな振動条件を一度の試験で与えることができる、新たな振動試験機を導入しました。これにより、短時間に再現性の高い製品評価が可能となり、モバイル製品独特の不具合を克服できる製品に上げることができました。

ブラザーグループでは、お客様の製品使用状況を調査し、それに応じた製品開発を実施することで、お客様に対して、一台一台安全で安心な製品をお届けする姿勢を貫いてまいります。



バイク荷台の振動波形

お客様とともに

物流・販売・サービス体制

電話対応に加え、新たな窓口を導入し顧客サービスを強化

兄弟(中国)商業有限公司がSNS「WeChat」によるサポートサービスを開始

中国の販売拠点の1つである兄弟(中国)商業有限公司(以下、BCN)は、コールセンターを設け、製品の故障や使用方法など、お客様の問い合わせに対応しています。しかし、ブラザー製品をご利用されるお客様が増えるにつれ、さらなるサポート体制を整える必要がありました。

そこで2014年5月、インターネットを通じてチャット形式でお客様がお問い合わせできるオンライン顧客サービスを導入し、サービスの質の向上に努めてきました。当サービスを利用されるお客様は年々増加しています。例えば、お客様がプリンターのドライバーやマニュアルなどの資料をダウンロードしたいとき、必要なURLリンクを速やかに受け取ることができ、よりスピーディーなサポートが受けられます。さらに、80以上の言語(方言)を有する中国では、聞き取りが難しい電話での会話に比べ、文字による対応のほうが理解・共有しやすいというメリットもあります。

スマートフォン利用者が急速に増加するにつれて、中国ではSNS「WeChat」サービスが広く活用されています。中国大手検索サイト「百度」の統計によると、2015年の第一四半期で既に、「WeChat」は中国の90%以上のスマートフォン上で利用されており、月間アクティブユーザー数は5.49億人にもものぼります。

このような時代の変化に迅速に対応するため、2015年、BCNはSNS「WeChat」を利用したお客様サポートの体制を導入することを決定し、2016年4月からBCNの「WeChat」公式アカウント「兄弟中国服務」の運営を開始しました。これにより、いつでも手軽に、必要な資料、消耗品の購入、修理・サポート店の情報などを「WeChat」の機能を利用して入手することができます。

また、もしお客様のブラザー製品や関連するサービスに不具合が発生した場合、「WeChat」の撮影・送信機能を利用すれば、問題点が一目でわかり、スピーディーかつ効果的に解決に導くことができます。

今後は、お客様がより直感的にブラザー製品の操作方法を把握できるようサポート動画を公開するなど、より多くのソリューションを提供していきます。

あらゆる場面でお客様を第一に考える"At your side."の精神。ブラザーグループは、これからもこの精神を貫きながら、お客様のさらなる満足度向上に全力を注いでいきます。



「兄弟中国服務」のトップページ

従業員とともに

ブラザーグループは、従業員の多様性を重視し、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供します。そして努力と成果に対して、公正な評価と正当な報酬で応えます。

多様な人材の確保

- ・雇用・処遇に関する基本方針
- ・多様な人材を確保するために

多様な働き方の支援

- ・ダイバーシティを推進するために
- ・女性活躍推進のための活動
- ・仕事と生活の両立支援

各地域での人材育成

- ・特色を生かした人材育成
- ・「モノ創り」の本質を伝承する匠道場
- ・従業員一人ひとりのチャレンジを後押し

グローバル人材育成

- ・グローバルな人材育成に向けて
- ・グローバルに取り組む海外拠点のマネージャー育成

労働安全衛生

- ・グローバルな安全・防災の仕組みづくり
- ・グローバルに安全衛生・防災活動の自立化を推進
- ・心身の健康維持・増進

グローバル憲章の共有

- ・すべての活動の礎に---
「ブラザーグループ グローバル憲章」の浸透

従業員の「誇り度」向上推進

- ・「ブラザーらしさ」を継承していくために
- ・働きがいのある会社ランキング、過去最高の17位にランクイン

従業員とともに

多様な人材の確保

雇用・処遇に関する基本方針

多様な人材が能力を発揮できる制度・環境を整備

ブラザーグループは、40以上の国と地域に生産拠点や販売・サービス拠点を設け、世界中のお客様に製品やサービスをお届けしており、人種・言語・文化・習慣など、事業を取り巻く環境がさまざまに異なる中で、全従業員がグローバルチームブラザーの一員として、日々活躍しています。

その基盤となるのが「ブラザーグループ グローバル憲章」(以下、グローバル憲章)の「基本方針」に掲げた「従業員の多様性を重視し、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供する。そして、努力と成果に対しては、公正な評価と正当な報酬で応える」という考え方です。また、グローバル憲章の行動規範では「常に一人ひとりの人格、多様性を尊重し、信義と尊敬を持って行動する」ことを定めています。

ブラザーグループ各社は、これらの考え方に基づいて、採用・評価・昇進などにおいて、民族・国籍・宗教・思想・性差・学歴・年齢・障がいの有無など、あらゆる差別を排除することを目指し、また、児童労働や強制労働を禁止しています。今後も経営層と従業員が一体となって、関連法規、規則の順守はもちろん、各自の文化や慣習を尊重し、グローバル憲章に基づいた人事制度の進化、職場環境の継続的な改善に取り組んでいきます。

公正な評価と処遇を目指した 目標管理制度

ブラザーグループは、意欲・能力・成果を公平・公正に評価して処遇に反映するための体制を構築しています。例えばブラザー工業では、一般従業員については、明確な評価基準に基づく目標管理制度のもと、納得性の高い評価を実施しています。評価の結果は被評価者に公開し、その後の面談においてその評価理由を伝えています。こうすることで、従業員が自らの仕事を振り返り、新たな目標に向かって成長していくためのモチベーションも高まるため、人材育成にもつながっています。なお、管理職に関しては、年俸制を採用しています。

従業員とともに

多様な人材の確保

多様な人材を確保するために

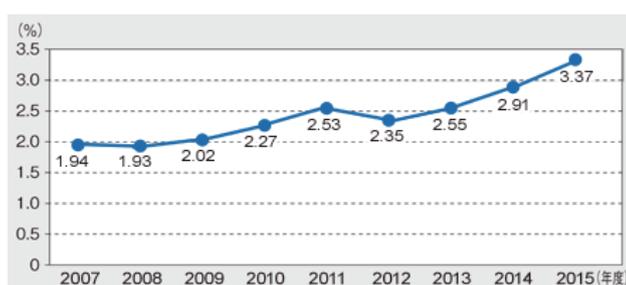
女性管理職の登用を推進

女性管理職については、各国・各地域で、女性の社会進出の歴史、生活文化、主な職種などが異なるため、全管理職者数に対する比率に差はあるものの、2015年度(2016年3月31日時点)は、ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.)においては管理職として活躍する女性が増加しています。

ブラザーグループの女性管理職者数と比率

社名[国]	2015年3月		2016年3月	
	数	比率	数	比率
ブラザー工業[日本]	24名	2.9%	27名	3.4%
ブラザー販売[日本]	2名	2.5%	2名	2.4%
兄弟高科技(深圳)[中国]	23名	29.5%	25名	31.3%
兄弟工業(深圳)[中国]	13名	32.5%	16名	36.4%
珠海兄弟工業[中国]	14名	58.3%	15名	57.7%
兄弟機械(西安)[中国]	3名	12.5%	2名	8.3%
ブラザーインダストリーズテクノロジー(マレーシア)[マレーシア]	9名	29.0%	9名	30.0%
ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.)[アメリカ]	78名	39.0%	87名	39.0%
ブラザーインターナショナル(ヨーロッパ)[イギリス]	7名	15.9%	7名	15.6%
ブラザーU.K.[イギリス]	12名	34.3%	14名	37.8%
兄弟(中国)商業[中国]	9名	28.1%	9名	28.1%
ブラザーインターナショナル(ドイツ)[ドイツ]	1名	9.1%	5名	16.1%
ブラザーフランス[フランス]	14名	41.7%	14名	41.7%
ブラザーインダストリーズ(ベトナム)[ベトナム]	29名	32.2%	34名	36.6%

女性管理職比率の推移(ブラザー工業)



従業員とともに

多様な人材の確保

多様な人材を確保するために

障がい者の雇用推進と活躍支援

日本では一定規模以上の企業に総従業員数の2.0%以上の障がい者雇用が法律で定められています。ブラザーグループは、障がい者雇用の促進により、障がいを持つ従業員もそれぞれの適性・能力に合った職種・職場で活躍しています。また、2013年4月に障がい者法定雇用率が引き上げられましたが、ブラザー工業はそれ以降も法定基準を満たす雇用率を維持しており、2015年度の雇用率は2.11%となっています。

障がい者雇用率の推移(ブラザー工業)



ブラザー工業は、グローバル憲章の「行動規範」にある「個人に対する信義と尊敬」に基づき、障がいの有無に関わらず、従業員同士が理解を深め、連携を強化して個々の能力を最大限に発揮できる職場環境をつくっていく方針を引き続き展開しています。2012年度からは日本におけるブラザーグループの各担当者で障がい者雇用に関する会議を開催し、各社の障がい者雇用や就労状況を共有し、各社で障がい者雇用を進めるように合意形成を図っています。

2016年4月に改正された「障害者の雇用の促進等に関する法律」施行に合わせ、法律の概要と考え方を学ぶeラーニングや、具体的な行動を促進するためのブラザーグループ内のジョブコーチによる勉強会を積極的に行っています。

従業員とともに

多様な働き方の支援

ダイバーシティを推進するために

ブラザーグループは、従業員が多様なライフスタイルを選択できるよう、各国・各地域の法律、労働環境、従業員の状況を踏まえ、多様な働き方を可能な限り支援しています。「真のグローバル企業」として、能力、人格、資質、行動に優れた人材が国境を越えて、適材適所に配置され、グループを牽引できるよう、制度の充実や従業員の意識改革活動を行い、ダイバーシティの推進に取り組んでいます。

昨年度、ブラザー工業は、これまでの取り組みが評価され、経済産業大臣が表彰する平成27年度「新・ダイバーシティ経営企業100選」を受賞しました。これからも性別・国籍・障がいの有無にかかわらず、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供していきます。



「新・ダイバーシティ経営企業100選」ロゴマークと表彰式

社外からの評価

認定先	認定年度	認定名
経済産業省	2015	 「新・ダイバーシティ経営企業100選」
厚生労働省	2011	 「次世代育成支援対策推進法」認定事業主"くるみん"マーク
	2014	「ファミリー・フレンドリー企業部門」厚生労働大臣優良賞
愛知県	2012	 「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」特別賞
	2015	 「あいち女性輝きカンパニー」認証
名古屋市	2011	 「名古屋市女性の活躍推進企業」認定
	2011	 「名古屋市子育て支援企業」優秀賞
Great Place to Work® Institute Japan	2010～	 7年連続「働きがいのある会社 ベストカンパニー」認定

従業員とともに

多様な働き方の支援

女性活躍推進のための活動

ワーキンググループ「Teamあじさい」が、課題を明確にして施策を提言

ブラザー工業で働く全ての女性が、さまざまな能力を発揮して今以上に活躍できる職場環境の実現を目指すために、女性従業員で構成するワーキンググループ「Teamあじさい」を2014年度に立ち上げました。「Teamあじさい」は、女性の活躍を推進していくための課題を明確にし、その課題に対する施策を提言しました。

ブラザー工業は、この提言に基づいて『女性活躍推進に関する宣言』や、『女性活躍推進に関する行動計画』の策定、在宅勤務制度の導入、有識者を招いての講演会を積極的に行っています。提言の中では、キャリア形成のための海外勤務経験の必要性も挙げられ、若手従業員が海外での業務経験を積めるトレーニー制度の積極的活用を推進しています。

2014年度からは、次期リーダー候補の女性従業員とその上司が、相互の理解と具体的なキャリア計画を策定する研修を実施しています。



「Teamあじさい」メンバー



有識者の啓発講演会で挨拶する社長



トレーニー制度利用者の声

相互理解を深めながら、課題解決に取り組む大切さを学ぶ貴重な経験

ブラザー工業株式会社 人事部
富田 菜実

入社3年目の2015年11月から3か月間、上海の販売会社にトレーニーとして滞在しました。現地では、中国のビジネスの現状や人事施策を学びながら、社内研修の企画に取り組みました。そのプロセスを通じて、日本とは異なる仕事の進め方や考え方がある一方で、日本と共通の課題があることにも気づきました。試行錯誤の末、企画の合意に至ったことは、異文化環境下であっても、対話を重ねて相互理解を深め、相手と同じ目線で課題解決に取り組むことの大切さを学ぶ貴重な経験となりました。トレーニーで吸収した多様な知見とバランス感覚、多くの人たちとの出会いを糧として、今後の業務に励んでいきたいと思えます。

▶女性活躍推進に関する宣言 (厚生労働省)

http://www.positiveaction.jp/declaration/add/search_detail/?id=1346

▶女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく一般事業主行動計画 [PDF/308KB]

http://download.brother.com/pub/jp/csr/pdf/diversified_plan.pdf

従業員とともに

多様な働き方の支援

女性活躍推進のための活動

主な施策

2014年度	<ul style="list-style-type: none"> ・女性活躍推進のためのワーキンググループ「Teamあじさい」発足 ・社長と、女性の活躍について語る会 ・上司と女性部下のための、キャリア支援研修開始 ・育児休職からの復職支援セミナー ・管理職対象の、女性活躍推進のための講演会 ・イントラサイトに女性管理職のキャリアを紹介する「Career Rainbow」ページ新設 	 <p>社長と、女性の活躍について語る</p>
2015年度	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅勤務制度の導入 ・役員と、女性の活躍について語る会 ・管理職対象の、女性部下育成のための講演会 ・女性従業員対象の、キャリア支援講演会 ・女性技能職対象の、キャリアを考える他社交流会 	 <p>キャリア支援講演会</p>

仕事と生活の両立支援

制度の拡充と取得しやすい雰囲気づくり

ブラザー工業は、従業員が安心して生き生きと働き続けられるために、フレックスタイム勤務や、育児や介護のための休職、短時間勤務、看護休暇などワークライフバランスを支える各種制度を整備しています。同時に、従業員の意見を取り入れ、制度が使いやすくなる工夫や社内での理解を進める雰囲気づくりにも注力しています。

2011年からは、いずれ訪れる大介護時代に備えた仕事と介護の両立を考えるセミナーを、2015年からは、育児休職からの復職セミナーを、従業員が参加しやすい勤務時間内に実施しています。

2015年10月からは、育児や介護などを行う従業員を対象とした在宅勤務制度を導入し、柔軟な働き方の選択肢を増やしました。



復職支援セミナー

従業員とともに

多様な働き方の支援

仕事と生活の両立支援

ブラザー工業の各制度の利用者数*1

	2013年度	2014年度	2015年度
育児休職*2	44名 (6)	45名 (9)	57名 (12)
介護休職*2	5名 (3)	3名 (0)	0名 (0)
育児のための短時間勤務	114名 (3)	130名 (5)	155名 (11)
介護のための短時間勤務	0名 (0)	1名 (1)	1名 (1)
看護休暇	21名 (8)	27名 (11)	29名 (7)
在宅勤務制度	-	-	29名 (6)

*1: ()内の数字は男性の利用者数

*2: 各年度での取得開始者数



在宅勤務制度利用者の声

集中力を高めて計画的に業務を遂行

ブラザー工業株式会社 開発企画部
川添 優美子

制度導入時から、週に1日の在宅勤務をしています。夫が海外で単身赴任をされており、仕事と2人の子どもの育児を両立するために、在宅勤務制度を利用できることは、とても助かります。集中力を高めて計画的に業務を行うため、これまで以上に上司や同僚とのコミュニケーションを意識して、仕事に取り組んでいます。

従業員とともに

各地域での人材育成

特色を生かした人材育成

さまざまな能力の発揮と多様性、チャレンジを重視した人材育成

ブラザーグループは、「ブラザーグループ グローバル憲章」の「従業員」の項目にも示されているように

- (1) 従業員の持つ多様性の尊重
- (2) 従業員による、さまざまな能力の発揮
- (3) チャレンジングな仕事の提供

を重視しています。そして各国、各地域、各事業に則した人材育成と関連制度の充実を図ることが、従業員の長年にわたる才能・スキルの発揮に結びつくと考え、育成環境の整備とさまざまな制度の構築を進めています。

「モノ創り」の本質を伝承する匠道場

製品の品質を支える知識と技能を伝承し、「モノ創り」の現場を進化させる

マシナリー事業は、2006年に製品の品質を支える知識と技能を伝承する場として「匠道場」を開設し、ブラザーの技術を顧客価値に結びつける力を養っています。

「匠道場」では、先輩従業員が講師となり、1年間のカリキュラムを通じて、部品に関する知識や、組立と加工の精度が製品に及ぼす影響についての知識、そして、技能スキルや仕事への心構え、安全への気配りなどを若手従業員に伝承します。製品を支える、これら「モノ創り」の本質を学ぶことで、課題を見つける目を持ち、現場の改革をリードする人材を育成しています。

「匠道場」で学ぶ若手従業員はもちろんですが、講師となる先輩従業員も「効果的な教育を行うため、自らも学ぶ必要があり、知識や技能が向上しています」と自身の成長を実感しています。

また、マシナリー事業は2011年から中国工場でも生産しており、文化の異なる国の多様性を尊重しつつ、どのように「モノ創り」の知識と技能を伝承していくかを課題として取り組んでいます。中国工場では、その国の文化にあわせた教育を展開していくため、人材育成を担当する現地の従業員が講師を務めます。日本の「匠道場」の講師は、現地従業員講師の養成に取り組んでいます。

ブラザーグループは、これからも従業員の才能とスキルの向上に努め、モノ創り企業として優れた価値を創造し、迅速に提供していきます。



やすり作業を学ぶ「匠道場」の若手従業員

従業員とともに

各地域での人材育成

従業員一人ひとりのチャレンジを後押し

経営層との継続的な交流の場や行動事例の共有で、従業員のチャレンジ精神と行動を高める

中国の販売拠点の1つである兄弟(中国)商業有限公司(以下、BCN)では、従業員と企業文化を共有し、一人ひとりが成長することを目指して、さまざまな人材育成を行っています。

毎週月曜日には、経営層から事業の状況やCSRの考え方について、全従業員にメッセージを配信しています。また、毎週月曜日に行われる朝礼では、従業員が、担当する業務で創意工夫をした日々の行動例を報告し、その行動に対する承認やアドバイスが経営層から贈られるなど、相互の情報共有を図っています。

さらに、従業員がもつ課題に対して、解決に向けた相談や新たな気づきを得ることを目的に、経営トップと従業員が直接対話をする機会を設けています。2015年は12回実施し、100名以上の従業員が参加しました。

また、お客様からのご要望を中国開発拠点と連携し24時間以内に解決した例など、チャレンジした成果とそのプロセスを「ブラザーグループ グローバル憲章」の記載内容と関連づけて発表する「グローバル憲章SHOW」と題した発表会も開催しています。優秀事例は社内表彰を行い、従業員一人ひとりのチャレンジ精神の向上とさらなる行動を促しています。2015年度は、11回開催し242名の従業員が参加しました。

階層別の研修では、多くの従業員を巻き込み目標へ向けて個々の能力を最大限に引き出す"主管職"と、グループやチーム全体を管理し革新的なプロセスと成果を創出する"管理職"といった役割にあわせたプログラムを実施し、従業員のチャレンジを促進しサポートする能力向上に取り組んでいます。

2015年、BCNは

- ・ 企業文化の共有
- ・ 従業員のCSRに対する意識の醸成
- ・ 従業員のチャレンジ行動の促進

といった活動が、従業員の成長につながると高い評価を受け、1949年創立の日報新聞『労働報』が主催する「2015労働フォーラム」で「人材戦略イノベーション賞」を受賞しました。

ブラザーグループは、これからも従業員の多様性を尊重し、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供します。



経営トップと従業員の対話



「人材戦略イノベーション賞」の盾

従業員とともに

グローバル人材育成

グローバルな人材育成に向けて

事業発展の鍵は、国内外従業員の人材育成と人材交流

グローバル化が進む中、ブラザーグループはグローバルでの人材育成と交流が事業発展の鍵を握ると考え、ブラザーのDNA継承やマネジメント能力の向上を目的とした研修、グローバルな人的交流の促進などに取り組んでいます。

取り組みの一環としてこれまでに、海外拠点のマネジメント層を育成する研修の実施や、日本の若手従業員を対象とするトレーニー(訓練生)の海外派遣など、早期に複数の国で経験を積む制度を実施しています。

これからも、各国・各地域の人材育成の情報をグループ全体で共有し、グローバルに計画的・長期的な人材育成を進めていきます。

グローバルに取り組む海外拠点のマネージャー育成

現場のニーズに寄り添った管理職養成研修を実施

ブラザーインダストリーズ(ベトナム)Ltd.(以下、BIVN)では、次期マネージャー候補者の早期育成を目的として、2014年から管理職養成研修を実施しています。この研修は、「自立した工場運営を担うベトナム人マネージャーを育てたい」というBIVNの要請からブラザー工業が支援し、始まりました。2015年度は第二期・第三期生としてベトナム人のマネージャー候補生(第二期9名、第三期10名)が選抜され、研修に取り組みました。

研修カリキュラムの作成時には、受講生とその上司へのヒアリングや360度サーベイを実施し、受講生が抱えるマネジメントの悩みや上司の期待を把握した上で、マネジメント能力の中でも特に必要とされる「報連相」、「チームマネジメント」、「部門間連携」に力点を置いた研修を行いました。研修中、受講生は多くのグループワークを通して自分の経験や悩みを共有し合うことで、知識習得だけではなく、実感を伴った学びを得ていました。そして、その学びから得た気づきを行動に生かすべく、受講生は自分の課題点を克服するための「行動計画」を毎月作成し、上司との面談を重ねながら行動改善に取り組みました。

受講生の上司からは、「管理職養成研修を通じて、自分の業務範囲だけでなく、広い範囲や他部門にも目を向けられるようになったと感じています」という声が届いています。2015年度は同様の取り組みをブラザーインダストリーズフィリピン(以下、BIPH)でも行い、15名のマネージャー候補生がワークショップやマネジメント講習に参加しています。受講生は、「分かる」と「できる」の壁を感じながらも、自分の小さな行動・心がけが周囲とのコミュニケーションを円滑にしていくことに気づき、管理職として会社をけん引していく意識を高めています。

ブラザーグループは、これからもグループ全体で長期的な人材育成に取り組んでいきます。



グループワークに取り組む受講生たち



上司への成果報告会

従業員とともに

労働安全衛生

グローバルな安全・防災の仕組みづくり

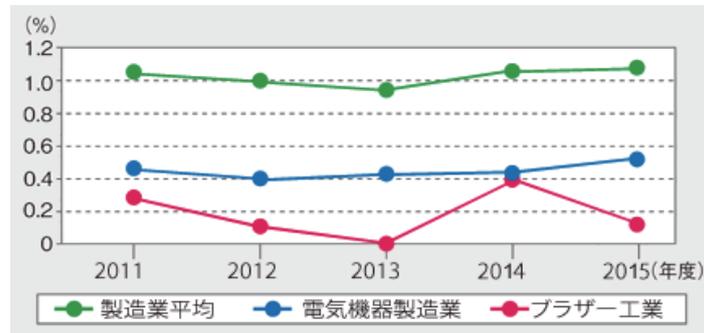
安全第一を基本方針としてマネジメントシステムを運用

ブラザーグループは、『安全第一』は、全ての活動の基本である。全ての従業員が安全に安心して健康に働ける快適職場となるように努めるとともに、安全文化を定着させる」という「基本方針」を、「安全防災方針」で定め、ブラザー工業の中央安全衛生防災委員会を中心に工場や職場における業務上の災害・疾病の防止や快適職場づくりに継続して取り組んでいます。



グローバル安全防災大会(ゼロ災でいこうヨシ!を全員で唱和)

労働災害度数率推移(ブラザー工業)



労働災害度数率とは、100万延労働時間当たりの労働災害による休業1日以上災害発生件数で労働災害の頻度を表すもので、計算式は以下の通りとする。
電気機器、製造業の数値は、厚生労働省「労働災害動向調査」による。

度数率 = (業務上労働災害による死傷者数 / 延実労働時間数) × 100万

従業員とともに

労働安全衛生

グローバルな安全・防災の仕組みづくり

安全衛生・防災活動の推進

中央安全衛生防災委員会事務局であるブラザー工業人事部安全防災グループが、各生産拠点の安全衛生・防災担当者とともに活動のPDCAを回し、自立化を推進しています。

安全衛生面では、安全衛生委員会の設置、安全衛生パトロール、災害発生時の再発防止対応、職場の潜在的リスクを計画的に低減する「リスクアセスメント活動」などを行っています。今後も従業員がより一層、安全で安心して働くことができる職場をめざして、継続的かつ積極的に安全衛生活動を推進していきます。

防災面では、万が一災害が発生した場合に被害を最小限にとどめるための防災組織の整備や、防災訓練(避難訓練、初期消火訓練、AEDを使用した救命講習)、法令に基づく消防設備点検を各工場で実施しています。

2015年は、地域や行政機関との間で大規模災害発生時における支援協力に関する覚書の締結を行い、共助による地域防災力の強化を推進しました。合同避難訓練などの実施により地域住民の皆さんとの協力関係を築き、地域社会の期待に応えられる防災活動に取り組んでいます。



近隣保育園との合同避難訓練

グローバルに安全衛生・防災活動の自立化を推進

新生産拠点に注力して推進

ブラザー工業人事部安全防災グループは、2006年度から、海外生産拠点と連携し、安全衛生・防災活動を推進しています。2009年度末に、海外の主要生産拠点独自の内部監査評価が国内とほぼ同じレベルになり、2010年度からは、海外生産拠点で自立した活動が実施できるよう、支援しています。2013年度から、ブラザーインダストリーズフィリピンとブラザーインダストリーズサイゴンLtd.を新たな支援先に加えました。2014年度から、ブラザーマシナリー(ベトナム)Ltd.(以下、BMV)についても支援先とし、積極的に安全衛生・防災水準向上のための活動を展開しています。

BMVでは、労働安全衛生に関する国際規格のOHSAS18001を取得し、2015年度にはゼロ災を達成しました。

2008年から、国内外の生産拠点関係者を集め「グローバル安全防災大会」を開催し、災害発生が少ない工場や安全活動が優秀な工場、長年にわたる功労者への表彰を行い、各工場の活動事例を共有し、安全衛生活動の推進に努めています。



中央安全防災委員長による現場巡視



油汚れのない床(BMV)

従業員とともに

労働安全衛生

心身の健康維持・増進

グループ全体の健康維持・増進を目指して

健康管理は元気に活躍する従業員にとって大変重要なテーマです。

ブラザー工業は、健康管理センターを設置し、グループ従業員の健康管理やメンタルヘルス対策、健康づくりに力を入れています。ブラザーグループの各国、各地域の拠点では、産業医を配置もしくは医療機関と提携し、従業員の心身の健康維持・増進に取り組んでいます。

健康管理センターの産業医と保健師は、2015年度、ベトナムの生産拠点であるブラザーインダストリーズ(ベトナム)Ltd.(以下、BIVN)とBMVを訪問し、出向者に対する健康面談やメンタルヘルス教育の実施、生活環境のヒアリング、近郊の医療施設の視察による医療情報の収集、提供を行いました。またBIVNとBMVの医療スタッフとミーティングを行い、健康管理センターとの連携体制を作り始めました。



BIVN近郊の医療施設



BMVの医療スタッフと産業医

心の健康づくり ～予防・早期発見・発症者フォローまで～

ブラザー工業は、2011年度に「第2期ブラザーメンタルヘルス5か年計画」を策定し、従業員に対する継続的なメンタルヘルス教育を行っています。自らストレスに気づき適切な対処ができること(一次予防)、不調者の早期発見・早期対応ができること(二次予防)を目指しています。特に一次予防につながるセルフケア講習は、全従業員が受講し、実際に社内で起きた事例を題材に体調管理の方法やストレスとの付き合い方について考える内容です。

2014年度の労働安全衛生法の改正に伴い「ストレスチェック」を導入し、ストレスへの気づきを強化しています。病気を発症した後も自分らしく働き続けることができるよう、復職支援(三次予防)にも各職場と協力し取り組んでいます。

今後は不調者の早期発見やフォローだけでなく、不調者が発生しにくい企業風土や快適な職場を作っていく必要があります。これは法令の基準を超えた「攻めの健康づくり」で、これまでの疾病管理モデルから、人材育成やキャリア開発、生き生きと働ける職場づくりを含めた人材戦略モデルに基づく施策です。従業員と各職場、そして健康管理センターが一丸となり、一人ひとりが心の健康を保ち、愉快地働きがいをもって働くことを目指し、対策を継続・強化していきます。



セルフケア講習

従業員とともに

労働安全衛生

心身の健康維持・増進

従業員の健康づくりをサポート

健康管理センターは、毎年10月～11月を「ブラザー健康生活月間」とし、健康保険組合・労働組合・人事部安全防災グループと協力しさまざまな取り組みを行っています。

2015年度は国内グループ会社(株)エクシングのJOY BEATを活用し「肩スッキリ教室」を開催しました。肩こりの予防や改善はもちろんですが、職場でのコミュニケーションアップや従業員と健康管理センターのスタッフとの関係強化につながりました。参加者は年々増加し、健康に対する従業員の意識が高まっています。

また、メタボリックシンドローム・疾病予防の支援や禁煙サポート・受動喫煙防止のための活動を行っています。全従業員の受動喫煙を防止するために2016年度から喫煙所の屋外化を行います。今後は、全面禁煙化の実現に向けて、喫煙者への禁煙サポートを強化していきます。



「肩スッキリ教室」



屋外の喫煙所

従業員とともに

グローバル憲章の共有

すべての活動の礎に—「ブラザーグループ グローバル憲章」の浸透

全従業員で共有するために積極的な浸透活動を展開

「ブラザーグループ グローバル憲章」(以下、グローバル憲章)は、グループ各社とグループ従業員の日々の意思決定と実行に関する基本方針と行動規範を定めたものです。グループ全従業員の活動の礎として共有され、日々の行動に表れている状態を目指し、継続的かつグローバルな浸透活動に取り組んでいます。

グローバル憲章を全従業員で共有していく環境づくりとして、携帯用のポケット版グローバル憲章(27言語)とポスターを各拠点に配布しています。また、イントラネットを活用して、内容の説明や各組織の活動計画、具体的な活動事例、経営層や管理職層のコミットメント(約束)を共有するとともに、自らの「行動」を具体的に考えることができるように、「対話」の機会をつくっています。

2016年3月に開催された経営層によるグローバル憲章共有会議では、活性化している経営層と従業員の直接対話(2015年度:269回)や、社長自らが複数回の講義に立つ「テリー's チャレンジ塾」を振り返り、2015年度の実績を確認しました。

併せて、グループの中期戦略CS B2018で示した「人財の変革」の推進と、その基盤のグローバル憲章浸透によって表れる従業員一人ひとりの行動や成長の後押しのために、

- ・変革が起きやすい企業風土づくりをどう実現していくか
- ・トップとしてどのような発言や行動で、効果的なコミュニケーションを図っていくかを、社長をはじめとする全執行役員が議論しました。



27言語に翻訳し、全世界で共有



社長と従業員が語り合う場(グローバル)

従業員とともに

グローバル憲章の共有

すべての活動の礎に―「ブラザーグループ グローバル憲章」の浸透

全従業員で共有するために積極的な浸透活動を展開

グローバル憲章浸透活動を推進するために重要な役割を果たしているのは、各組織の「グローバル憲章共有リーダー」の存在です。世界で約560名の共有リーダーは、各拠点・各組織の実情に合った計画を立て、社内研修や浸透活動の事例報告会などを行い、組織活性化を進めています。

例えば中国では、製造、販売、開発の7拠点の共有リーダーが一堂に集まる「中国横串共有リーダー会」を、2014年6月から定期的で開催しています。「チャレンジ風土の醸成」に向けた計画の立案・実行・改善を自律的に進め、2015年12月には「チャレンジ事例」の発表会を開催しました。

ブラザー インダストリーズ サイゴンLtd.では、事業の成長で急激に増加した従業員に向け、グローバル憲章を具体的な日常の行動につなげる独自の取り組みを進めています。2015年11月に、製造現場で働く従業員を対象にした研修が行われ、グローバル憲章のキーワードを日常事例に置き換える話し合いを行い、1人ひとりが3つの行動を約束する「行動カード」を作成しました。

このような活動事例は、イントラネットを活用し、日英中の3言語でグローバルに発信され、ブラザーグループ内で共有しています。

ブラザーグループは、こうした多様な浸透活動を通じ、ビジョン実現に向けて変革の起きやすい組織風土の醸成に取り組んでいます。それは、グループとして成長し、社会にとって価値を産み出し続けるために、あらゆる変革を恐れず、チャレンジ精神を持って行動することが必要だからです。そして、グローバル憲章に示された、"At your side." を意識した従業員すべての行動は、グループの成長だけでなく、社会からの要請に応える活動や継続的な社会貢献活動に強く結びつきます。

ブラザーグループは、これからもステークホルダーの皆さまからの信頼を積み重ね、従業員にとって「誇り」の持てる企業の実現につながるよう、グループ全従業員で価値観を共有する活動を継続し、進化させていきます。



話し合いをする製造現場の従業員

従業員とともに

従業員の「誇り度」向上推進

「ブラザーらしさ」を継承していくために

「チームブラザープロジェクト」

若年層従業員が徐々に増加する中、「ブラザーらしさ」をどう継承していくか、また、従業員の「誇り度」を向上させ、やりがいを持って働ける環境を維持するにはどうすればよいのか、これらの課題に取り組むために、ブラザー工業は2008年度「チームブラザープロジェクト」を立ち上げました。

このプロジェクトは、活動を推進する役割を担うファシリテーターが全部門より選抜され、部門毎に課題を分析し、年間目標を立てて改善を継続している点が大きな特徴です。各部門で自律的な取り組みを進めるとともに、全部門のファシリテーターが出席する定例会を行い、それぞれの活動の共有や、各種事例をもとにしたディスカッション、会社業績を学ぶ機会などを設け、情報共有を図っています。



定例会でディスカッションするファシリテーター

誰もがチャレンジできる会社を目指して

こうした全社的で、継続的な活動の成果は、全従業員を対象とした従業員意識調査の結果に表れており、「誇り度」の値は年々上昇してきました。

さらに、2014年度からは全社をあげて「チャレンジ風土の醸成」に取り組んでおり、チームブラザープロジェクトにおいても、チャレンジできる環境づくりを積極的に進めていく方針です。誰もがチャレンジできる前向きな雰囲気や、安心して取り組める環境づくりを進めています。

従業員とともに

従業員の「誇り度」向上推進

働きがいのある会社ランキング、17位にランクイン

ブラザー工業は、7年連続で「働きがいのある会社」に選ばれました

ブラザー工業は、Great Place to Work® Institute Japan (以下、GPTWジャパン)による「働きがいのある会社」調査で、17位*1にランクインしました。ベストカンパニー*2に選ばれたのは、2010年に初めてこの調査に応募*3して以来、7年連続7回目となります。この「働きがいのある会社」調査は、GPTWジャパンが参加企業にアンケートを実施し、その評価を行うものです。「従業員へのアンケート」と「会社へのアンケート」の二つが実施されますが、そのうち従業員の声により重視される(評価の重みが全体の3分の2を占めます)、ユニークな調査です。



ベストカンパニーに贈られた認定のロゴ

ブラザー工業が今回高く評価された項目(ベストカンパニー25社の平均を上回る主な項目)は、以下のとおりです。

- ・ 温かい雰囲気のある会社である
- ・ 従業員を解雇するのは「最後の手段」とされていると思う
- ・ 仕事と生活のバランスを取るよう奨励されている
- ・ この会社の労働環境は、安全で衛生的である
- ・ 私は、この会社で長く働きたいと思う

ブラザーグループが進める「CSR経営」は、ステークホルダーの皆さんからの信頼を目指すものです。上記で高評価となった各項目は、私たちがお客様や社会に向け、継続的に信頼を積み重ねていくためにも大切なことと考えています。これからも、こうした客観的な評価で自分たちの取り組みを振り返りながら、よりレベルの高い「働きがいのある会社」を、そして従業員にとって誇りの持てる会社を目指していきます。

*1: 2016年版 日本の「働きがいのある会社」ランキングについては、

「GPTWジャパン」のサイト(<http://www.hatarakigai.info/ranking/index.html>) でご覧いただけます。

*2: 今回は、従業員1,000人以上の大規模部門で上位25社が選出されています。

*3: 評価方法など詳しくは「GPTWジャパン」のサイト(<http://hatarakigai.info/investigation/technique.html>) で確認できます。

ビジネスパートナーとともに

ブラザーグループは、お客様に優れた価値を迅速に提供するために、お取引先と常に公平・公正な取引を行い、相互信頼関係を築いて成長しあうことを目指します。

CSR調達の推進

- ・お取引先とともにCSR調達を推進
- ・調達方針、CSR調達基準
- ・お取引先とともにCSRのレベルアップを目指す
- ・お取引先の優秀なCSR活動を表彰

お取引先の声

- ・ブラザーグループとの相互成長に向けて
- ・お取引先から

ビジネスパートナーとともに

CSR調達の推進

お取引先とともにCSR調達を推進

「調達方針」と「CSR調達基準」を公開

ブラザーグループは、部品・材料を調達するお取引先の皆さまにCSR調達の考え方を共有していただくために、「調達方針」と「CSR調達基準」を公開しています。環境に配慮した部品・材料を優先的に購入する「グリーン調達」に加え、人権・労働、安全衛生、公正取引・倫理、品質・安全性、情報セキュリティー、社会貢献などの分野にも広がっています。ブラザーグループは、お取引先の皆さまとともにCSR活動を推進していきます。

調達方針

- ・すべてのお取引先に対して、公平・公正な取引を行います。
- ・活動する国や地域における関連法規、規則を順守し、お取引先と相互信頼関係を築いて、成長し合うことを目指します。
- ・地球環境に配慮したグリーン調達を推進し、製品のライフサイクルを通じた環境への負荷を低減します。
- ・あらゆる場面でお客様を第一に考え、優れた品質と適正なコストの追求に努めます。
- ・紛争鉱物*問題を重要な課題としてとらえ、責任ある鉱物調達の実践に取り組みます。

*: 紛争地域で不当な方法で採掘された鉱物。その取引は武装勢力の資金源となり、紛争地域での人権侵害、労働問題、環境破壊等への関与が指摘されています。

CSR調達基準 (お取引先へのお願い)

- ・すべての人の基本的人権を尊重し、不当な労働の強制、児童就労などは行わないでください。
- ・従業員の安全と健康を確保し、安全で働きやすい職場環境づくりに取り組んでください。
- ・地球環境への配慮に前向きに取り組んでください。
- ・関連法規、規則を順守し、公平・公正で最高度の倫理感を持った取引を行ってください。
- ・お客様に安全かつ優れた品質の製品をお届けするための仕組みづくりに、取り組んでください。
- ・情報管理体制を構築し、個人情報、機密情報を、適切に管理してください。
- ・地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担することにより、よき企業市民となるよう努力してください。
- ・紛争地域において不当な方法で採掘された鉱物を、原材料として使用しないよう努力してください。

▶英語版 調達の方針・基準 <https://global.brother/en/csr/stakeholder/partner/csr#c02>

▶中国語版 調達の方針・基準 [PDF/111KB] <http://download.brother.com/pub/com/en/csr/partner/policy-cn.pdf>

ビジネスパートナーとともに

CSR調達の推進

お取引先とともにCSRのレベルアップを目指す

CSR調達を推進するために、アンケートを実施

ブラザーグループは、「ブラザーグループ グローバル憲章」のもと、お客様、従業員などブラザーに関わるすべての人々に信頼される企業を目指し、CSRへの取り組みをさまざまな分野で続けてきました。そして、その考え方を部品・材料を調達するお取引先の皆さまにも共有していただくため、これまで各地で「CSR勉強会」を開催してきました。しかし、CSR活動は安全衛生から地球環境への配慮にまで対象範囲が広く、お取引先のCSR活動として取り組まれているのか把握ができていませんでした。

そこで、2011年から、CSRアンケートを作成し、CSRレベルの"見える化"の取り組みがスタート。ブラザー独自の情報連携基盤、B'snet Portalなどを活用し、2013年には300社以上からのアンケートを集計することができました。今回使用したCSRアンケートの内容は、ブラザーが掲げるCSR調達基準をより詳しく解説した内容になっており、このアンケートがさらにCSR調達を推進するきっかけにもなりました。各お取引先のCSRレベルが把握できたことで、ブラザーグループ各地のCSR担当者がお取引先の現状に合わせた改善、推進活動を行うことが可能となります。これにより、CSRレベルの底上げが期待できると考えています。



ブラザーグループとお取引先(サプライヤー)を繋ぐ情報連携基盤、B'snet Portalを通じてアンケートを回収

優秀な事例を表彰し、各お取引先に情報共有する仕組みを構築

2015年7月、マシナリー事業の工業用マシンなどを生産している刈谷工場、兄弟機械(西安)有限公司(以下、BMX)、ブラザーマシナリー(ベトナム)Ltd.(以下、BMV)のそれぞれのお取引先に、コンプライアンスや環境・安全性など7項目の取り組み状況についてアンケート調査と現場確認を実施しました。

2016年度は、CSR活動のさらなる向上に向けて、お取引先の皆さまから取り組み事例を募集し、優秀な事例について表彰し、その事例を各お取引先に情報共有します。

労働環境改善や廃棄物の削減、ISO 14001の取得やそれに基づいた取り組みなどこれまでのCSR活動と、今後に行う予定の取り組みと課題、CSR宣言として各社の方針を情報提供していただきます。

2016年7月～8月に取り組み事例を募集し、応募をいただいた取り組み事例を確認後、必要に応じてお取引先の現場確認を実施し、2017年2月に表彰を行う予定です。

ブラザーグループは、これからもお客様に優れた価値を迅速に提供するため、ビジネスパートナーと相互信頼関係を築いて成長しあうことを目指します。



お取引先でのヒアリング

ビジネスパートナーとともに

お取引先の声

ブラザーグループとの相互成長に向けて

CSR調達は世界的な潮流であり、その定着・浸透は、企業を取り巻く社会的リスクを回避し、新たな顧客獲得の機会拡大にもつながります。この主旨をご理解いただき、ブラザーグループとの信頼関係を基盤に相互成長を目指すお取引先から、多くの声が寄せられています。

お取引先から



従業員の帰属意識が高まる会社を構築

中山進成塑料製品有限公司

張 宏達 様

これまでのCSR活動

1. 労働組合や会社が従業員を集めイベントを開催しています。
2. 団結力を高めるため、最低年に1回、全従業員参加のイベントを実施しています。例えば、旅行、バーベキュー、山登りなど。
3. 従業員に配慮して、毎月誕生祝い会を開催し、プレゼントを贈っています。
4. 従業員のモチベーションを高め、生産性を向上させるため、生産が計画を上回った場合に従業員に賞を与えるようにしています。加えて、総生産量が目標を達成した際、手当も給付しています。
5. バスケットボール、バトミントン、卓球、体を鍛える器具や図書の貸し出しなど、多彩なイベントを実施しています。

CSR活動に関する今後の課題や取り組み

従業員の帰属意識が高まる会社を構築していきます。

1. 継続的に整然としたコミュニケーション体制を構築していきます。
2. 定期的に従業員を集めイベントを開催していきます。
3. 従業員に配慮する活動に取り組んでいきます。

ビジネスパートナーとともに

お取引先の声

お取引先から



協力と信頼

KTC (Ha Noi) Co., Ltd.
Tran Thi Dung 様

これまでのCSR活動

- ・毎月、誕生日の従業員を祝っています。
- ・毎週水曜日に、管理職、監督職、リーダー全員が会社周辺の清掃をしています。清潔な職場環境を維持するという良い習慣を従業員が身につけることも目的としています。
- ・全従業員が参加する「沈黙の一時間」運動を数カ月間実施し、成功を収めています。
- ・その他、地域の団体が企画するさまざまな活動に参加しています。寄付や慈善事業バザー、祭やスポーツ大会へ参加のほか、他の企業の人々と定期的に仕事の経験や知識について情報を交換しています。

CSR活動に関する今後の課題や取り組み

革新を進め、活動を刷新し、互いに学び合い、団結力を高めます。



「Nidec Way」と3Q6Sの推進

日電産貿易(深セン)有限公司
包勝様

これまでのCSR活動

1. 日本電産グループの行動規範「Nidec Way」の推進
2. 3Q6Sの推進
3Q=良い社員(Quality Worker)、良い会社(Quality Company)、良い製品(Quality Products)
6S=整理、整頓、清掃、清潔、躰、作法
3. 定期健診、安全教育、設備の改善、レクリエーション活動など
4. 使用する材料や廃棄物の削減、環境状況の測定など

CSR活動に関する今後の課題や取り組み

1. 従業員一人ひとりが自分自身の働く力と協調性を高め、無駄なく効率よく仕事するとともに、創造性を発揮し、変革を恐れず、仕事の効率を上げていくことに挑み続けます。
2. 従業員のサービス意識を高め、自身の持つ競争力を強化し、職場の環境を最適化して、仕事の効率を高めていきます。
3. 従業員の健康とメンタルヘルスに関する管理を重視するとともに、安全かつ健康的な職場を作るため、安全意識の向上に取り組んでいきます。
4. 従業員の環境保全意識を高めるための教育と実践活動を強化していきます。

ビジネスパートナーとともに

お取引先の声

お取引先から



国際規範に基づく活動を通じ、取り組みを強化

ROHM Semiconductor (Shenzhen) Co., Ltd.
谷口 智之 様

これまでのCSR活動

ロームグループでは創業当時から、企業目的・経営基本方針を具現化し、CSRを実践してきました。また、グループ全体で国連グローバル・コンパクト、ISO 26000、EICC(電子業界CSRアライアンス)行動規範といった国際規範に基づく活動を通じ、CSRへの取り組みを強化しています。

ROHM Semiconductor (Shenzhen) Co., Ltd.でも社員一人ひとりが日々の業務を通じてCSRを実践できるよう、企業目的や国際規範に基づく「行動指針」を全社員に配布しています。

さらに、中国を含む国内外のグループの主要生産拠点において、EICC行動規範に基づく監査を受審することで、CSRの実践状況をチェックし、ステークホルダーの皆さまに、より信頼していただけるよう取り組みを進めています。

CSR活動に関する今後の課題や取り組み

世界ではサステナビリティ(持続可能性)の重要性が認識され、さまざまな社会的課題を解決しつつ、企業活動を実践していくCSV(共通価値の創造)という考え方が広がっています。

ロームは創業時より「企業目的」に基づき、品質を第一としたモノづくりを通して、文化の進歩向上に貢献するため挑戦を続けてきました。今後は、ロームの製品を通じて社会課題を解決し、持続可能な社会に向けて貢献することを目指していきます。

株主とともに

ブラザーグループは、株主からもたらされた資本を活かし、
継続して企業価値を高めるとともに、
積極的な情報公開を行い、株主との間に長期的な信頼関係を築きます。

IRコミュニケーション

- ・株主・投資家とのコミュニケーション
- ・会社説明会を積極的に開催し、個人投資家にPR
- ・外部からの評価

株主とともに

IRコミュニケーション

株主・投資家とのコミュニケーション

積極的な情報開示

ブラザー工業は、株主・投資家の皆さまへの情報提供の機会を増やし、最新の情報を分かりやすくお伝えすることにより、長期的な信頼関係の構築に向けて努めています。

株主の皆さまに対しては、年2回株主通信をお届けし、ブラザーグループの業績や最新的话题をお伝えしています。また、機関投資家・証券アナリストの皆さまに対しては、社長自らが説明を行う決算説明会を年2回開催しているほか、積極的に個別訪問や取材対応を行っています。

個人投資家の皆さまに対しては、各地の証券会社支店での会社説明会を中心に事業内容や経営戦略の説明などを行っています。

また、ブラザー工業は、2016年6月24日(金)に、「第124回定時株主総会」を名古屋マリオットアソシアホテル(愛知県名古屋市)で開催し、755名の株主の皆さまにご出席いただきました。本総会では、2015年度のブラザーグループの事業状況の報告や2016年度の業績見通しに関する説明を行い、議案審議では、多くの株主の皆さまからご賛同を得て、すべての議案について原案どおり承認可決されました。株主総会終了後には、株主の皆さまが当社役員と直接対話する「株主懇談会」も開催しました。

ブラザー工業は、これからもより多くの株主・投資家の皆さまとコミュニケーションをとる機会を作り、積極的な情報開示を行っていきます。



第124回定時株主総会

会社説明会を積極的に開催し、個人投資家にPR

個人投資家向け会社説明会を全国各地で多数開催

ブラザー工業は、株主・投資家の皆さまへの情報開示を積極的に行っています。年2回お届けしている株主通信のほか、会社説明会などさまざまなコミュニケーションの機会を作り、信頼関係の構築に努めてきました。

近年は株式投資環境が盛り上がりを見せ、個人投資家の関心もますます高くなってきています。そのような状況の中、個人投資家の皆さまに愛着を持って長く株式を保有していただくため、「ブラザーのファン作り」活動に力を入れています。2015年度は札幌、仙台、金沢、東京、岐阜、名古屋、京都、大阪、尼崎、姫路、広島、松山と各地の証券会社支店を会場として計17回の会社説明会を開催し、延べ2,500名以上の個人投資家の皆さまとコミュニケーションを図ることができました。また、各会場には製品の展示コーナーを設置し、多くの投資家の方々から質問をいただくなど、ブラザーグループのモノ創りを直接ご紹介できる貴重な機会となりました。ご参加いただいた個人投資家の方々から、励ましや今後への期待の言葉を多数いただき、「ブラザーのファン作り」への確かな手応えを感じることができました。

ブラザー工業は、これからも会社や製品の魅力を伝えるため、全国各地で会社説明会を行う予定です。株主・投資家の皆さまと直接コミュニケーションができる機会を大切に、さらなる「ブラザーのファン作り」のための活動を積極的に続けていきます。



200人を超える方々が参加した、東京会場での説明会



製品の展示コーナーにお越しいただいた個人投資家の方々への説明

株主とともに

IRコミュニケーション

外部からの評価

8年連続で「モーニングスター社会的責任投資株価指数」構成銘柄に選定

2016年1月4日付けでモーニングスター株式会社の算出する「モーニングスター社会的責任投資株価指数(MS-SRI)」の構成銘柄が発表され、ブラザー工業は、2008年から8年連続で選ばれました。

社会的責任投資(SRI: Socially Responsible Investment)とは、従来の財務分析による投資基準に加え、社会への貢献度合いや倫理面、環境面から企業を評価する投資方法です。国内初のSRI株価指数である「MS-SRI」は、国内上場企業約4,000社の中から、社会性に優れた企業と評価できる150社を選定し、その株価を指数化したものです。

投資家の皆さまからのSRIへの関心が高まる昨今、8年連続で選定されていることは、ブラザーのコーポレートガバナンスやコンプライアンスの体制だけでなく、雇用、健康・安全、教育、地域社会、環境等さまざまな社会的課題への積極的な活動と情報公開が高く評価された結果と捉えています。

ブラザーグループは、これからも中長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を推進することで、すべてのステークホルダーからの信頼を積み重ねるとともに、さらなる事業の成長を目指します。



<http://www.morningstar.co.jp/sri/index.htm>

*: 記載されている情報は、2016年1月4日時点のものであり、予告なしに変更される場合があります。

地域社会とともに

ブラザーグループは、所属する国や地域に対する貢献を常に意識し、地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担することによって、よき企業市民となるよう努力します。

グローバルな社会貢献活動

- ・ブラザーグループ全体で統一感を持った社会貢献活動を推進
- ・ゴールデンリングプロジェクトへの従業員参加
- ・地震や台風による大規模災害など、社会影響の大きい案件への対応

米州での社会貢献活動

- ・BIC(USA)が「ユナイテッド・ウェイ募金キャンペーン」に貢献

アジア・オセアニアでの社会貢献活動

- ・教育施設の整っていないフィリピンの小学校を支援

日本での社会貢献活動

- ・チャレンジ精神あふれる若手起業家を支援する「東海若手起業塾」

欧州での社会貢献活動

- ・イタリアの文化的遺産を保護する活動に参加

中国での社会貢献活動

- ・学校と連携し、より良い教育環境を創る

地域社会とともに

グローバルな社会貢献活動

ブラザーグループ全体で統一感を持った社会貢献活動を推進

ブラザーグループは、「ブラザーグループ グローバル憲章」に示されている「所属する国や地域に対する貢献を常に意識し、地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担することにより、よき企業市民となるよう努力する」という考え方にに基づき、各国・地域の拠点でさまざまな社会貢献活動を行っています。またブラザーグループ全体で、よりグローバルに統一感を持った社会貢献活動を推進するため、下記の2つの活動を中心に、各国・地域の拠点と連携してグローバルに展開しています。

- (1) 地球環境への配慮に関連した活動
- (2) 「地域」「人づくり(従業員を含む)」を意識した活動

2015年度の取り組み

ブラザーグループは、環境活動を象徴するロゴとスローガンである「Brother Earth」に基づき、企業活動のあらゆる面で地球環境への配慮に前向きで継続的な取り組みを行っています。

2015年度もその一環として、製品における省エネルギーや工場の操業における省エネルギー、環境保護団体の支援や従業員参加の環境保全活動などをグローバルに展開しました。

「地域」「人づくり」を意識した活動としては、2008年から日本で、地域の活性化を目指す若手起業家を支援する「東海若手起業塾」に協賛しています。また、世界各地で開催されるがん患者を支援するボランティア活動に、日本・アメリカ・ニュージーランドなど合計18拠点の従業員がそれぞれ参加し、グローバルで一体感をもった活動の推進を図っています。

各国・地域の社会貢献活動事例(分野別)

活動分野	活動	活動拠点
地球環境への配慮に関連した活動	「Brother Earth」のスローガンに基づく、環境保護団体の支援や従業員参加の環境保全活動のグローバルでの実施	ブラザー工業 各国・地域の製造・販売拠点
「地域」「人づくり」を意識した活動	起業を目指す人材を支援する「東海若手起業塾」	ブラザー工業
	がん患者を支援するボランティア活動への従業員参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラザー工業 ・ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.) ・ブラザーインターナショナル(ニュージーランド) をはじめとした海外販売18拠点

地域社会とともに

グローバルな社会貢献活動

ゴールデンリングプロジェクトへの従業員参加

1985年、アメリカの医師ががん患者のサポートや治療研究の資金を集めるため、24時間歩き続けて寄付金を募る活動を始めました。この活動が「リレー・フォー・ライフ(命のリレー)」*として世界中に広まり、がん患者とその家族に希望を与えています。ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.)は、この活動に10年以上前から参加していました。

ブラザーグループは、グローバルで一体感を持った従業員参加の社会貢献活動を目指し、2011年から、「リレー・フォー・ライフ」をはじめ、がん患者を支援するチャリティーイベントへの参加を推進しています。支援活動を各拠点へとつなげ、世界地図に支援の輪を描いていくことから、この活動を「ゴールデンリングプロジェクト」と命名。活動の際には参加国の国旗などを刺しゅうしたたすきを身に着け、このたすきを次の参加拠点にリレーしていきます。同じ活動に参加するだけでなく、たすきも受け継ぐことで、従業員同士が同じ思いを共有するという一体感が生まれました。

*: 参加者がチームの仲間とたすきをつなぎ、24時間歩き続けて寄付金を募る、がん患者支援のチャリティーイベントの一つ。これまでに世界40カ所以上で開催されている。

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」で命の大切さを考える

日本は、2010年から「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」に参加しています。初年度は103名の参加でしたが、2015年9月、愛知県岡崎市で開催された「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」には、過去最多となる300名のブラザーグループ従業員とその家族が参加しました。

イベント当日は、会場内で開催されるコンサートや他の参加者との会話を楽しみながら、会場のトラックを参加メンバーで交替しながら24時間歩き続けました。

また、サバイバー(がん経験者)やケアギバー(がん患者の家族や支援者)の方の体験談を聞く機会をブラザー独自で設けました。参加した従業員からは「がんのことや命の大切さを改めて考えました。生きたくても生きることを許されない子どもたちがいることや、命の大切さを子どもたちや身近な人たちに伝えたいと思います」といった感想が聞かれました。



体験談を聞く従業員

地域社会とともに

グローバルな社会貢献活動

ゴールデンリングプロジェクトへの従業員参加

タイで独自のチャリティーマラソンイベント「Brother Run & Share event」を開催

タイ国内では「リレー・フォー・ライフ」や類似のイベントが行われていなかったため、ブラザーコマーシャル(タイランド)Ltd.(以下、BCTL)は、2014年から独自のチャリティーマラソンイベント「Brother Run & Share event」をタイの首都バンコクで開催しています。2016年は1月に、チャオプラヤ川の橋を渡る公道を使用した5kmと10.5kmの2つのコースで開催しました。

BCTL従業員とその家族だけでなく、お客様やお取引先、地域住民の皆さんに広く呼びかけた結果、当日は総勢1,433名が参加。参加賞として配ったオリジナルランニングシャツを着て、子どもから大人まで幅広い年齢層のランナーがマラソンを楽しみました。

イベントで集まった参加費と寄付金を合わせた640,000バーツ(日本円で約220万円)は、がん患者の支援を目的に、バンコクにある国立大学付属のラマティボディ病院の運営するラマティボディ財団に寄付されました。

BCTLは、こういったイベントを今後も継続して開催し、より多くの皆さんとともに社会貢献活動に取り組んでいきたいと考えています。



一斉にスタート

地域社会とともに

グローバルな社会貢献活動

ゴールデンリングプロジェクトへの従業員参加

2015年度 ゴールデンリングプロジェクト参加拠点



アメリカ



イギリス



ドイツ



インドネシア



シンガポール



台湾



日本



マレーシア



南アフリカ



韓国



アラブ首長国連邦



オーストラリア



フランス



香港



ベトナム



タイ



ニュージーランド



フィリピン

地域社会とともに

グローバルな社会貢献活動

地震や台風による大規模災害など、社会影響の大きい案件への対応

世界各地で発生する大規模災害に対して、ブラザーグループは発生地域や被害の状況に応じて、会社と従業員が一体となった支援に取り組んでいます。

1. グループからの義援金による支援
2. 従業員からの寄付やボランティア活動による支援

会社からの義援金は緊急支援として主に赤十字社やNPOなどに拠出され、従業員からの寄付やボランティア活動は、被災地のニーズに合わせて公園や図書室の整備、漁具製作などに役立てられています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災に対しては、ブラザーグループは被災された地域の復旧・復興を願い、「現地のニーズに合った、支援の効果が見える活動」「被災者の"生きがい創り、しごと創り"につながる活動」「従業員の積極的な参加」を3つの柱に位置付け、継続的な支援活動を着実に進めています。

2016年4月14日に発生した熊本地震に対しては、ブラザーグループとして義援金300万円を認定NPO法人ジャパン・プラットフォームに拠出いたしました。また、従業員からの寄付の募集やブラザー製品の特別修理サービス、グループ会社のエクシングの子会社であるスタンダード社が運営するカラオケ店やインターネットカフェのレジカウンターに義援金の募金箱の設置などを行いました。

被害を受けられました皆さまに、心よりお見舞い申しあげますとともに、一日も早い復旧をお祈り致します。

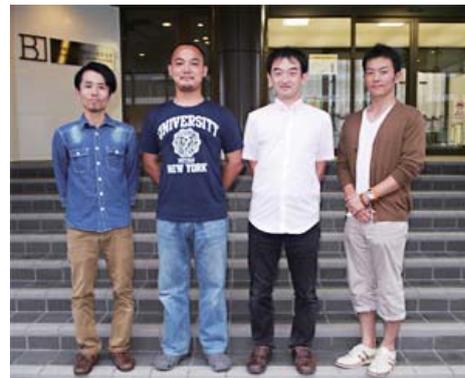
地域社会とともに

日本での社会貢献活動

チャレンジ精神あふれる若手起業家を支援する「東海若手起業塾」

「東海若手起業塾」

近年、日本では多様な社会的課題の解決や地域の活性化などにビジネスとして取り組む若者が増えています。しかし、ビジネスを成長させるための事業経験や人的ネットワークが不足しているために、さまざまな経営問題に解決策を見出せない場合があります。そこでブラザー工業は、2008年、本社のある東海地域の若手起業家を支援するために、起業家支援に取り組む国内の複数のNPOが協働で運営する「東海若手起業塾」への協賛を開始し、2016年3月までに合計38名の起業家を支援しました。この塾では、起業家に対して、事業戦略検討会を開催したり、消費者とともに製品開発する機会を提供したりするなど、それぞれの事業を成長軌道に乗せるためのさまざまな活動を実施しています。9年目となる2016年は、5月に支援を希望する起業家の募集が行われました。8月の選考会で選抜された起業家は、2017年3月の最終報告会までの7カ月間、「東海若手起業塾」の実行委員会とともに、ビジネスモデルや事業戦略の質の向上を目指します。



東海若手起業塾に参加した若き起業家

「東海若手起業塾」の支援活動にブラザー従業員が参加

2012年度からは、従業員が「プロボノ*」として参画し、会社の業務で培ったスキルを支援に生かすとともに、起業家のチャレンジ精神に触れる活動をスタートしました。2015年度は、選考された3名の従業員が、それぞれ担当する起業家の「伴走者」として支援に取り組みました。このプログラムに参加した従業員からは、「事業者ではないものの、自分事のように考え、議論し、活動に取り組んできました。プロボノ活動で得た人脈と経験を、今後の業務やボランティア活動に生かしたいと思います。」とコメントがあり、起業家から積極性やチャレンジ精神を学ぶ良い機会になっています。

*: プロボノ: 会社の業務で培ったスキルを、それぞれの起業家の支援に生かす活動



従業員も起業家支援の現場に参画

起業家の成長と地域のチャレンジ風土醸成に貢献

「東海若手起業塾」で支援を受けた起業家の中からは、日経ウーマン・オブ・ザ・イヤーの受賞者が生まれました。また、農林漁業者と連携して新商品の発売を実現し、経済産業省と農林水産省が共同で取りまとめた「農商工連携ベストプラクティス30」に選出された起業家も生まれています。「東海若手起業塾」を通じて、ビジネスを成長させるための事業経験や人的ネットワークを得て、経営が安定し、収益が増加する起業家も増えています。

2015年には、これまで支援を受けた起業家たちが独自の会を発足し、現在支援を受けている起業家の良きアドバイザーとなっています。さらに「プロボノ」として参画した従業員自らが、社会的課題の解決や地域の活性化の活動に参加し始めるなど、8年間の継続した取り組みによって、「東海若手起業塾」の枠を超えた活動へと広がっています。

地域社会とともに

米州での社会貢献活動

BIC(USA)が「ユナイテッド・ウェイ募金キャンペーン」に貢献

各地域の従業員が食料品の寄贈や慈善バザーを開催

ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A)(以下、BIC(USA))の全米各地にあるオフィスの従業員は、長年にわたり、ユナイテッド・ウェイの募金キャンペーンに、さまざまな方法で参加しています。

ユナイテッド・ウェイは、各地で集めた寄付金や支援物資を、慈善活動を行う団体へ分配している全米最大の非営利団体です。

BIC(USA)は、従業員の寄付金に合わせて会社が同額を寄付するマッチングギフトを実施し、総額15.6万ドルをユナイテッド・ウェイに寄付しました。

BIC(USA)のニュージャージーオフィスでは、恵まれない人たちに食料援助を行うNPO団体「フードバンク」が実施する「フード・ドライブ」に参加し、2015年10月28日から11月8日の期間に従業員から集めた食料品を、ユナイテッド・ウェイの募金キャンペーンの一環として寄贈しました。

「フードバンク」に寄贈された食料品は、24,000世帯以上のニュージャージー州・サマセット郡の住民に配布されています。

BIC(USA)のテネシーオフィスでは、ブラザー製品を従業員に販売する慈善バザーやハロウィンの仮装パーティーを開催し、バザーの収益やパーティーの入場料などで集まった\$530をユナイテッド・ウェイに寄付しました。

BIC(USA)は、これからも所属する地域社会をよりよくするための継続的な取り組みを、従業員一体となって進めていきます。



ニュージャージーで寄贈した食料品

地域社会とともに

欧州での社会貢献活動

イタリアの文化的遺産を保護する活動に参加

ミラノ近郊にある古い修道院の庭を手入れ

1975年に設立されたイタリアの非営利団体 FAI - Fondo Ambiente Italiano(以下、FAI)は、イタリア人のルーツとなる自然や芸術、歴史や伝統などの文化的な遺産を保護する活動を推進しています。

ミラノに拠点を構え販売やサービスを展開するブラザーイタリア S.p.A.(以下、ブラザーイタリア)は、2015年5月、FAIのプログラムに参加し、ミラノ近郊にある古い修道院「Monastero di Torba」の庭を維持する活動を行いました。

約20名の従業員が、休日の1日をかけて、修道院の庭の掃除や植物の手入れを行いました。

参加した従業員は、「イタリアの素晴らしい文化遺産を保護する活動に参加し、とても有意義な経験になりました。そして、ブラザーイタリアの仲間との共同作業で、私たちの連携を深めることもできました」とコメントしています。

ブラザーグループは、これからも積極的に社会貢献活動を推進し、地域社会をよりよくするための継続的な取り組みを従業員一体となって進めていきます。



参加した従業員たち

地域社会とともに

アジア・オセアニアでの社会貢献活動

教育施設の整っていないフィリピンの小学校を支援

教育の質を高め、児童たちの学ぶ意欲を応援する

ブラザーグループは、「地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担する」という考え方のもと、各国・地域の拠点でさまざまな社会貢献活動を行っています。

ブラザーインターナショナル(フィリピン) コーポレーション(以下、BIC(P))は、2012年からリサール州にあるイニガン小学校を支援しています。NGO団体 "Philippine Business for Social Progress"の協力で、援助を受けていない、または少ない援助で運営している学校を調べた上で、支援校を選びました。

BIC(P)は、定期的にイニガン小学校を訪問し、ノートやペンなどの学用品、椅子や黒板、ソーラーパネルの設備を寄贈し、児童たちの学ぶ環境を整えています。また、毎年12月に社会見学を実施し、その費用の寄付と児童たちの引率を行っています。2015年は、マニラにあるさまざまな職業を体験できる施設を訪れ、児童たちは看護師や消防士などの仕事にチャレンジしました。

BIC(P)の従業員による環境教育では、地球環境や水資源が大切なものであり、ブラザーグループは5R活動で保全活動に取り組んでいることを説明しています。児童の多くはフィリピンの景観保護地域の近隣に住んでおり、地球環境保全の意義を学ぶことは、とても重要です。

BIC(P)の支援で、イニガン小学校の児童たちは学ぶ意欲を高め、2015年3月に行われたフィリピン全地域の学力テストで、イニガン小学校が所在する地域にある11の公立小学校中、1位の成績を修めました。

BIC(P)の支援に対し、児童の親からは、「援助は、私たちや児童のためだけでなく、環境のためでもあるのです。私たちは炭を作ること子どもたちの学用品の費用をつくります。ご支援のおかげで木を切ることなく、オゾン層に穴を開ける原因をつくらずにすみます。本当にありがとうございました」とコメントをいただいています。

BIC(P)は、これからも地域に対する貢献を常に意識し、継続的な取り組みを行っていきます。



従業員による環境教育

地域社会とともに

中国での社会貢献活動

学校と連携し、より良い教育環境を創る

学生の技能向上と、社会で働く意義を理解する機会を提供

兄弟機械(西安)有限公司(以下、BMX)は、2008年から西安近郊の農村地域にある職業訓練学校を支援をしています。2013年までの5年間は毎年、工業用ミシンと補修用の部品を寄贈するとともに、奨学基金を設けて優秀な学生を支援しました。

2014年からは、西安市にある紡績やアパレルを学ぶ西安工程大学と新たな協力プログラムを開始しています。同大学の「服装工程技術研究センター」では、ブラザーが寄贈したミシンを、研究者や学生の縫製研究や実験、縫製設備の学習に役立てています。また、縫製に関する技能教育やBMXの工場見学会を開催し、学生の技能向上と、学んだ技能や知識を実践に結びつけて社会で働く意義を理解する機会を提供しています。

中国では、企業のCSRをより促進するため、中国商務部の外郭団体である中国外資企業協会が『中国外資系企業・優秀CSR事例』を表彰しています。

BMXは、農村部の若者の技能向上と学生の就職難、教育現場の設備不足という社会課題に向き合い、自社の製品と資源を生かした支援を行ったことと、教育現場のニーズを理解し適切な支援を行うため、特に西安工程大学と多くの対話を行い支援内容を検討したことが、理想的な連携と支援プログラムの構築であると評価され、「2015年中国外資系企業・優秀CSR事例」の「地域社会の良きパートナー」として表彰されました



2015年12月9日 北京で開かれた発表会にて
(左から:BMX李演さん、中国外資企業協会副会長、
西安市外資企業協会事務長、BMX王朋さん)



表彰企業に送られる賞状

BMXは、これからも「地域社会の良きパートナー」として地域社会と互いの信頼のもと連携し、さまざまな活動を推進していきます。